明治四十年六月十五日發行
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

汝神に悦ばるゝものとならんことを務め、又耻る所なき工人となりて眞の道を正しく頒ち教へんことを務むべし　提摩太後書第二章

明治の女子

【第四卷第六號目次】

評論

遊戲神聖論……………中桐生
我等支配する人……………エー、シー、マクドナルド
隱れたる力……………T、H、生

文藝

少女グウエン（コノア）……………辻村靖子 河井道子 合譯
物見岩（ヴアン、ダイク）……………原口生譯

雜纂

基督教女子青年會がなすべき事…井深はな子
基督教女子青年會總會報告其他雜報

（女子基督教青年會機關）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子

「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する機關雜誌也。
「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢一部郵税共金五錢とす。
日本女子基督教青年會は青年女子の衛生、社交、智識、靈性上の發達を計るための團體也。
日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長 エム、エ、ホイツトマン
副委員長 岡見惠子
記錄書記 エ、ジー、ルイス
萬國基督教女子青年會同盟委員 河井道子
會計 サラ、エリス
明治の女子編輯 松田道子

東京在住委員

津田梅子　渡部初子
エ、ビー、ウエスト　井上友子
宮川壽美子　ジエム、フイツシヤー
平野濱子

地方在住委員

大坂 ケー、ツリスツラム　同 エル、ハミルトン
神戸 ピー、ヘルム　京都 ジ、エス、フエルプス
仙臺 エル、ザフルー　名古屋 イ、エム、ソーパル
弘前 エヌ、ジー、ゲイン　函館 エム、プラオンロ
日本女子基督教青年會幹事 エー、シー、マクドナルド
同副幹事 エス、シー、フキツシヤー

明治四十年六月十三日印刷
明治四十年六月十五日發行

東京市麹町區土手三番町十五番地
發行兼編輯人 エー、シー、マクドナルド

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷人 島連太郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷所 三秀舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子　第四巻第六號　明治四十年六月十五日發行

評論

遊戲神聖論

中桐確太郎

◎自由は人間の理想なり。然れども自由とは義務の念より全く脱し去れるの有樣をいふにあらずして、義務の念が障礙に逢はざるの有樣をいふ也。義務の念とは正しとする所を爲すべしとするの念なり。此の念障碍を受けずして其の欲するまゝに活動するを眞の自由といふ。所謂「心の欲する所に從ひて矩を踰えざる」は自由の眞形式なり。

◎人間の理想たる自由の仙鄕を一時的に現し來るを遊戲の本義とす。遊戲は自由の眞義を體現すといふ意味にて神聖なるものと謂ひ得べし。人その職業を勉め、緊張せる身神を寬らして此の仙境に遊び、無邪快活の靈泉に浴して、身神を保養し、其元氣を回復し、其精神を新たにすることを得。人間遊戲なくば疾勞困憊に堪へざらんとすべし。

◎遊戲は又美術の如し。人は美術によりて一時理想の境に遊び、美の洗禮を受けて蹈り、現實世界を美化するの元氣と奮勵心とを隆んならしむるが如く、人は遊戲に於て、自由の眞趣をほのかに味はひ、以て病勞屈撓せんとする身心を保養し、以て現實世界に自由の理想を造り出すの勇氣を鼓舞作興せしむることを得、孔子が「游於藝」とのたまひしもの、蓋し此の邊の意味を含めるならん歟。

◎遊戲は「矩を踰えざる」自由の眞義を體現すべきもののなるが故に、規矩準繩に違ふことなき、成るべく健全なるものを選ぶを要す。遊戲にも一定の規律あるを要する所以のもの即ち此の故に外ならず。規矩なく常

法に違へる遊戯は存在の本義を失ず、宜しく用ふべからざる也。

◎聞說く、小兒の遊戯は未開時代になせる人間の事業を繰り返し之れによりて以て現時代の人間に達せんとするの稽古なりと。吾等の遊戯もまた宜しく吾等の理想を實現する稽古準備として之を行ふべき也。

我れ等を支配する人

エー、シー、マクトナルド

「願ふはキリストをして信仰によりて爾曹の心に居らしめんことを。」

基督教は生ける一人を中心とする宗教なり。世間の道學先生は自ら光明を模索し死したる眞理を捉へて云ふ、「是れ道なり、爾曹是れに循ひて歩め」と。然れどもキリストは曰く、「我れは道なり、爾曹我れに從へ」と。乃ち知る、キリスト教は各人の生涯に於て生きたる只だ一人の垂訓に從ふことを求むるものなることを。

是くの如きものこれ則ちキリスト教の根本的眞理にして、大に我れ等の宗教思想を簡單ならしめ力あらしむるものと謂ふべし。宗教は個人の性癖の中に存するものにあらず。人或は己が性情のいたく宗教的ならざることを慨することあらんも、猶ほクリスチャンたるに於て何の妨あることなし。實にや、エスキリストの宗教は歷史の上に、又人類の經驗の上に於ける一個の眞理にしてキリストは其眞理を此世に活躍せしめたるものに他ならず。人或は己が性情の科學の研究にふさはしからざるに心付くことあらん、されど孰れか科學上の說明の不可能なるが爲めに己が居室に電燈を設備することを拒まんや。寔に宗教は人の性癖の中に存するものにあらずして、深く萬人の意思の中に存するものなり。キリスト教の信仰は單に智的認容にはあらずして、完全なる生きて働ける主宰者基督に對する誠忠を意味す。キリスト教は之に依て理想的生活を示し理想的精神を鼓吹し、理想的性格を敎ふ。夫れ人は善か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れ惡かれ或る種の生活を營み、眞理にまれ虚僞にまれ或る種の精神を抱懷し、且つ高尙にまれ野卑にまれ或種の性格を有さゞるを得ず。而して眞實の宗敎的生活とは、衷に主宰者なるエスキリストを宿すをいふ。單にキリストの敎訓のみならず、又單に其模範的行動のみならず、キリスト自體、否、キリストの靈的生活を實現ずるものをいふ。

こは誠に不可思議なる言なるが如し、されど我れ等は日常至るところ、不可思議なる現象に遭遇するにあらずや。キリスト曰く、『風は己がまに〳〵吹く、爾曹其聲を聞けども其いづくより來りいづくに去るを知らざるなり、と。されど人は風の行方を知らざるが爲めに、其實在を疑ふことありや、海路漕ぎ行く舟夫共は帆を揚げて風を捉へ、これを己が營業の目的に用ふるにあらずや。キリストはいひぬ、我が靈性の化を受くるものも亦是くの如し、げに爾曹は我が精神の爾曹の衷に入り、爾曹の生活を指導し、爾曹の行爲の原動力となりて、以て爾曹の日常の生活を高尙ならしめ、潔白ならしむるに至る徑路を說明することあたはじ。されどたゞ我命を聽きて我が靈化を享受し、以て日常の行動を律せよ。さらば爾曹の外に顯はるる行ひが、やがて衷に宿れるキリストの德を反映するに至るべしと。見よ、潮を横ぎりて快艇の壽地に進み行くを。これ追手の風あればなり。見よ、眞理と純潔と克己との生涯の如何に氣高きかを。是れ其衷に宿れるキリストの感化あればなり。不可思議といへば不可思議也、まことに、一方より見ればクリスチヤンの生活は常に不可思議なるものぞかし。さなり、不可思議ならざればそは其特色を失へるものとこそいふべけれ。さる記者はいひけらく、『クリスチヤンは他に類なき現象なり、吾人は到底世の常の標準によりて是れを說明し得べくもあらず。若し是れを爲し得べしとせば彼れは既にクリスチヤンなる本分を失へるなり』と。

然れどもキリストを衷に宿す道は、極めて簡單にして、是れを驗するの法も亦甚だ容易なり。然らば如何なる條件の下にキリストの親臨を得、又其制御を

受くることを得るや。我れ等は罪悪や、懦弱や、怠慢の境界より我れ等を拯ひ出す救主を願望するや。我れ等は已が宗教生活によりて得たる力をもて、弱者を助くることを得んが爲めに强固ならんことを欲求するや。我れ等は自己の價値なきを自覺して、「我が魂は渴けるもの丶水を求むるが如くに、活ける神を慕ひ求む」と叫ひ得るや。我れ等若しかゝる誓願を胸に立つれば則ちキリストにより「飢渴くか如く義を慕ふものは福なり。其人は飽くことを得べければなり」との答を聞くことを得べきなり。

又基督教は、キリストか自ら我れ等の具有すべき人格――我れ等の追求すべき大望を實視して後昆に示し給ひし點に於ても、亦生きたる人を中心とする宗教なりと謂ふことを得べし。謂ふ、「爾曹キリストエスの意を以て意とすべし」と。今やこのキリストの心意と性格とは極めて明瞭となりぬ。彼れや、生をこの地上に享け世俗の間に出入し、生きとし生ける人々の當然受くへき誘惑を受け、試鍊を經、而して彼れはこの間に處して神意に適ふやうに、萬づのことを取り行ひにき。かゝれは我れ等の追ひ求むるは空漠なる理想にあらずして、「圓滿無碍のキリストの形相なり」「彼れは爾曹をして己の跡に隨はしめんとて範を爾曹に遺し給へり」。クリスチャンたるの道はたゞ是れのみ。而して我れ等の大望は我れ等を驅りて日又日キリストに肖ることいよ〳〵近うして、竟に「我れ等が聖顏を見、目覺むる時聖光をもて飽き足ることを得」るに至らずんば止まらず。

かゝればクリスチャンたるの道は外はキリストの模範に倣ひて行動し、内は心にキリストの精神上を宿すにあり。彼れは單に眞理と純潔と愛との類なき模範たるのみならず、抑も亦我等をして同じ愛と純潔と眞理との生活を營むことを得しむる神の力なり。彼れ等は「信仰によりて爾曹の心に居る」。そは我れ等が「愛に根し愛を基として」他に品位匹儔なきキリストの美的生活の幾分を世の人に示すことを得んが爲めなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

隠れたる力

T、H、生

日常の如くに自分は同じ舎に住める二三の友達と打連れだちて、夜の引き明け方に江戸川に參り、土堤の上に遊んでゐた。雨降り上りの事なれば水の勢ひ烈しく、浮んでゐる草、芥、枯木の枝など浮きつ沈みつ思ひ〳〵に速く流れ下つてゐる。互ひに話しゝ乍ら流れに沿ふて下ること數丁にして我等は音に名高いかの關口の大瀧の所へ參つた。所が此處では水の勢愈々烈しく幅一丈にも餘ると見ゆる水の大柱は岩に衝き當つて碎け散り吼り狂ふてゐる。其音が騷々しいのでツンポにでもなりそう。御互ひの話し聲など勿論聞えない。從つて御話するのを止めてしまつた。自分は日頃にない見事なる此有様を見ていつになく考へに沈んでしまつた。それは凄まじい水の勢ひが緣となつて、いつからか自分の心に解り掛けてゐた事が次第に燎然解つて來たからてある。

兼て散歩好きな自分は是迄關口の大瀧に御百度を踏んでゐる。否それ所ではなく遙かに其水源地にまで度々遡つたとがある。飛べは一足飛びが出來る程狹い所に來て其上をば幾度となく往來した。それて勿論燎然かく思つた譯てはないけれども、自分が此小川の上を往き來した時の心持ちはまづこうてある。ナーニこれ田舍田地の溝てはないか、こんな狹い溝、かばかりの水何が出來るものかと。漠然とまあこんな風に考へてゐた。其ために一向河のことなど氣にはかけなかつた。否自分ばかりでなく此邊の犬も小兒も先づこんな考へて此小川の上を往き來したゞらうし又今日でも自分と同じ考へて何の考もなく其上を跳ね越へてゐることであらう。併し今日——即ち關口の大瀧の大活劇を目擊した今日——となつて見れば是迄の自分の考へが淺墓で不注意て愚かてあつたことが解つた。其譯はと申すならば、自分が嘗ては見縊つて一向氣に止めなかつた其川の流れは昔も今も變りなく、平然自若として草の葉蔭れに流れてゐる。流れが多くなつて勢ひづか

うが水が涸れて流れの勢ひがなくならうが人が見やうが見るまいが一向そんなことには頓着しない。夜も晝も流れ〳〵て息むことを知らない。水底の傾斜が甚だしい處に來れば其につれて流れも疾くなり、曲り角に來れば卷いて渦となり、岩角に突き當つては玉と碎ける。それで一旦閘口の瀧のやうな所に來れば人々の心膽をさむくする樣な大活劇をやる。自分は水がこんなにいつも變りなく己れがあらん限りの力を盡して活動してゐるのを見て誠に感動した、否感動せずにはゐられなかつた。其で發に此小川の流れを畏敬しなかつたことを愧ぢ從來（これまで）自分の觀察が常に物の皮相に止まつてゐたことを深く悔いた。それで此江戸川の流れ――きつい流れ――を見てから自分の注意は世に隱れたるものに注がれる樣になつて頑迷固陋な考へも幾分か開けた樣な氣がした。自分は此朝の散歩に感謝しなければならぬ。

それで自分はなぜそんなに深く感動したかと云ふことにつき思ひ當る節を述べて見やうと思ふ。自分が先づ最も感動したのは水の中にある勢力が隱れてゐると云ふことである。我々信仰薄い者は力はない癖に何事につけても力を見せたがる、意張りたがる。自分の力に充分に信賴して安心して働くことが出來ないで常に人の目を恐れてゐる。常に人に見せたがるばかりでなく實際よりも大きく見て貰ひたがる。働く手の握り拳の中にも喋々とさへづる口の端にも虛榮心が付き纒ふてゐる。己れの天運を全ふするだけ働いて安心して往生することが出來ない。死の間際に至るまで虛榮心と自負心と野心とに悶へ苦んでゐる哀れなるものである。力以上に意張つて見て人が見て呉れなければ不平を云ふ、泣く、と云ふ始末で手がつけられない。先づ之を女に就て見れば、妻は自分の立派な行が良人や姑に見られなければ煩悶し苦勞し、蔭に廻つては泣き愈々堪らなくなれば首でも縊りかねない。之は古今の人情である。さうでないと云つて反對する人があるかも知れないけれども、事實だから致し方はない。それで女子と小人は養ひ難しと昔しから云つてある。妻たる女ばか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

りでなく青年女子の間に於ても矢張り同じことてある。解りきつたことを云ふとくどくなる故言はないが兎に角今日女子の間に於て最も恐るべき誘惑罪悪は虚榮心である。それで今日の女子が如何に虚榮心のために水の泡沫の様な生活をして居るかを見やうと思ふならば善く日本で讀まれてゐる虚榮之巷と云ふサッカレーの小説を讀んで見るがいゝ。中々に思ひ當るふしが多からうと思ふ。成程日本にも隨分眞面目な信仰を持て働いてゐる女たちもあります。併し我々が最も恐るゝ處は、今日此頃何々會何々倶樂部と云ふ會合にて働いてゐる婦人たちに、野蠻人人喰ひ人種のみ住んでゐる様な例へば南洋の島へ行つて傳道でもしたらどうですと薦める時に、彼等は身震ひして逃げ出すてあらうと云ふことてある。そんな事でも薦めたら女たちは異口同音に死んだがましだと叫ぶでありませう。餘計な話なれど、我々が外國から來た傳道者殊に婦人について感心することは彼等が野心や虚榮心に打ち勝つて働いて居ることてある。彼等の目より見れば日本に來ることはたしかに一種の島流しである。彼等がどんな美しき行をしても最も見られんことを願ふ彼等の朋友親戚は見て呉れない。それでも平然として、傳道事業をやつてゐます。我々は日本婦人が少しく斯くの如き西洋人に習つて其虚榮心より脱却してたとへ日陰に働くものとなつても、天職を盡すことが出來ることを望みます。我々は日本の女の内に他日女のリビングストンが生れ出ることを望みます。數日前の國民新聞に山路愛山氏の青年女子に對する御意見が出て居る。其中に次の様な言があつた。少年は自己のため生活するの勇氣あり獨立心ありと言ひ得べし。少女に至つては寧ろ全然他人のために他人の評判のために棲息するものなり』。誠に味の深い言で我々は茲に面白い一つの對稱を見るのてあります。女と雖も矢張り人間である以上は人間とならなければならぬ義務あること、かの少年の如くになくてはならない。其故如何にとなれば我々が此世の中に生れて來たのは自分の命自分の信念自分の力言ひ換ふれば自分と云ふものを立派に作り上げるた

めてあつて決して人の評判を聞いて狼狽しに來たのではないからてある。此大事な／＼命を人の評判のために忙殺すると云ふのは情けない次第である。此點に就てかの水は偉大なる教訓を我々に與ふるものである。水の流るゝや一向己れの力を人の前に誇張することなく、一見平々凡々の活動しかしてゐない様であるけれども、全く天分に甘んじて天が命ずる儘にスル／＼と流れ下つてゐる。名もなき枯れ小草の下に流るゝとも何等の不平も溢さず一向平氣で流れて居ります。それでも關口の瀧の如き場所に來れば平生隱し持ちたる力を發揮して又遺憾ない。何となく氣狂ひじみてる様なれども自分は此意味深き水の流れを見てから之を自分の深い友達として感ずる様になつた。又其と同時に一切の自然物に對しても左様に感ずる様になつた。こゝて初て基督かゆりの花に愛する友達を見出されました理由も解つた。實は自分は此ゆりの花の話しをしもし度々聞きもしたなれども充分に心から解りかねてゐた。併し今は幸にも幾分か心から呑み込むことが出來る様になつた。我々は彼の流るゝ水の様に人知れぬ谷底に咲いて居るゆりの様に世に知れないで隱れてゐても根限り自分の力を盡して働きたいと思ふ。

此隱れたる力と共に自分が感じたのは**隱れたる水の自由**と云ふことてある。かの水には慾もなければ煩惱もない。從つて其等の惡勢力に囚はれて其奴隷となることは勿論ない。露となり雨となり瀧となり河となり海洋の水となり己が天性の美質を思ふが儘に自由に展べて居る。煩惱の犬となるなど云ふケチな境遇は彼が思ひもよらぬ所てある。彼等は因果の法則に縛られて居るが如くに見ゆるけれども其精神は全く物理化學の法則以上に超越して思ふ存分に活動してる。吾々は目に見へる様な煩惱につかまらない迄も其以外目に見へない自分でも容易に氣がつかない一種の魔力に壓せられてゐる。例へば吾々が道德的宗教的生活をしての本當の世渡りをしやうなど高尙なる決心を起す時でさえ一種の壓力が我々を抑へる。先づ宗教的生活の例について見れば我々が其生活に入らんとする際にはどうも

禮儀、習慣、仕來り、法則、典據(オーソリティー)などが先きに立つて我々を頭から抑へやうとする。何事にも聖書には斯く書いてあるとか誰れの言には斯う言つてあるとか言つて口が先きに立つて我々の行ひ思想を縛り付けて精神の自由を束縛する。一歩高く踏み出して活動し時々刻々其靈を新にして天地の間に自由に吾々の精神を働かすことが出來ない。我々は目に見ゆる色々の苦目に見えない一種の魔力に捉へられ縛られて自由に其力を伸すことが出來ない。然るに水は自然の成行に身を托して居り乍ら而も自由自在に、自分の性質を行つて居る。昔しの聖人たちが「我々は自然に絶對的に身も心も任かすことに依て絶對的の自由を得る」と言つたのは矢張り此不思議な自由のことを言つてゐるのであらう。

自由と云ふことに結びついて深く自分に感動を與へたのは水の勢ひ勇氣と云ふことである、人間の多くは常に色々地につけるに迷に暗まされて活動の針路を失つて居る。常に逡巡し躊躇し茲に處し境遇に應じて力一杯に活動すると出來ない。調和すべからざる時に濫りに調和し爭ふべき時に爭へない。常に逡巡し常に狐疑し常に臆病に何事も不自然になりがちである。されども我々の精神の力はかの流るゝ水の如くに平和なるべき時は充分に平和に爆發すべき時には思ふ存分に爆發しなければならぬ。遙か遠方なる水源地の當りに於ては滯とも渠とも知れないかの小川が關口に來て一度斷崖の間に墜つるはめになれば潜める力と勇氣とは激發して吠へ吼り狂ひ人を驚歎せしむると云ふ氣概は容易に人間の中に見ることと出來ない美點である。自分が江戸川の畔に立つたのは是迄何十回何百回になるか解らない。併し未だ曾て其流れか教ふる非常なる默示を覺ることが出來なかつた。然るにかの打ち響く水の音響は平生の迷夢を打ち破つて眞の自由眞の信仰眞の平和眞の力は默して談らない自然の中に大に現はれて居りはせぬかと云ふ疑ひ――自分に取ては誠に氣持ちの善い疑ひを與へて呉れた。

翻つて人生に於ける眞の力はいづこに發揮せられてゐるかと云ふことを考へて見る時に、矢張り眞の力は

常に隱れてあるものである樣に思はれる。自分は元來己れに忠實なるものとして許して大に誇りとし、常に隱れた處に信仰と活動力を求めてゐた積りてあつたがどうも心から譯が解らなかつたゝめ、兎角世間の毀譽褒貶を氣にして奴隷的精神情態に陷りがちてあつた。幼少の時から新聞や雜誌や書籍を見或は英雄に關する物語りを聞いた時に慥かに血は幼なき胸に湧きかへつた。殊に東京と云ふ都へ來て大厦高樓さては銅像などを仰ぎ見た時に自分の理想は何となく之等の物の中に耀いてゐる樣に思つた。而し今日一生懸命になつて、眞面目に人生に眞の勢力の存在する處を捜し初めた時に其力は矢張りこんなもの以上、現世の評判以上の隱れたる場所にあることが解つた。人生の眞の勢ひは自然の中に隱れてゐる力と同じ樣に多くは隱れたる處にある、此事に就てはステッド氏の十九世紀評論中の序論は甚だ滿足なる說明を與へてゐる樣に思はれる。

ステッド氏は其十九世紀史論の序論に於て大要次の如く言つてゐます。「自分は今十九世紀の盡頭に立ちて十九世紀全體を批評して其史論をなさんと企てゝゐるものである。而るに自分が今其任に最も能く適したものであるかどうかを考ふる時に自分は斷乎として不適任だと言はなければならない。何となれば自分は未だ十九世紀の內にあつて其複雜な夢から醒め得ないて其中に迷ふて居るものであつて高く遠く懸け離れて此世紀中の事々物々の長短と一々定めることが出來ない。自分の觀察は此點に於ては科學者哲學者の其に酷似して居るものである。科學者は物の一部分は成程精細に觀察して居るが物の全體の見通しをつけてゐないことが多い。全體を見通すと云ふ點から云へは宗教家は最も便利なる地位に居るものである。科學者か部分的研究に埋れて居る如く自分は十九世紀と云ふ大海原の波に泳いて居るものであれば到底總體的に物の全局を見渡すこと到底出來ない。自分をして若し百年後に十九世紀史を書かしめたならば今自分が茲に書いて居るものよりも遙かに正しきものを作るてあらう。何となれば其時には自分は世の中に隱れたる力を見極めること

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が出來るからてある。自分か十九世紀を批評するに關係して如何に困難なる位置に立つて居るかは次の話ても解る。即ち同じく紀元一世紀に關して今日全く異なつた二個の考へか成立つて居る。一は紀元一世紀の歴史家（多分タシタス）の一世紀史論て其二は十八世紀の歴史家（多分ギッボン）の考てある。前者は第一世紀に於て羅馬に住んて居り乍ら羅馬を評してゐるし後者は千七百餘年の後に於て羅馬の文明を批評して居る。羅馬の歴史家（タンタス）は所謂らく偉大なる羅馬帝國の文明が作り出した實がありとすれば开は法律と政治てある。羅馬人の法律は實に天下の寶てあると成程羅馬人は世界の法律の先祖てある。彼の希臘が藝術學問を以て誇り又彼の猶太民族が宗教（勿論つまらない形式的宗教）と殖産興業にて誇れるに對し羅馬人は法律の民として誇つてるし又其權利がある。故に當時のローマ人は所謂らくかのフォーラム（裁判所）こそは羅馬人の文明が産出したる最も尊むへきもので後世を動かす原動力は必ずかのフォーラムより發するてあらうと。併し羅馬帝政時代の產物として最も偉大なる產物は果して法律て世界文明の原動力は果してフォーラムから發したてあらうか。世界文明は羅馬人又は羅馬の歴史家が想像した如くにフォーラムより發したてあらうか。此事については十八世紀の史家（ギッボン）及び今日我々の考へは全く羅馬人の其と異なつて居る。

今日より見れば世界文明の源はフォーラムにあらずして羅馬人が足の下に蹂躙した猶太人の其猶太人の内ても最も擯斥せられたナザレのイエスてあることが解る。斯の如きはかの誇れる羅馬人の夢にだも思はざりし處てある。羅馬人等にしてどうして東方の弱國に於て大工の子として而も馬の槽の中に生れたかのイエスが世の光り世界の救主てあることを想像することが出來たらう。況んや犯罪者として十字架上に刑せられたる彼が世の救主文明の支配者と云ふ事を想像することが出來やう。そんな筈が羅馬人にある譯はない。イエス、キリストの事につき死後の記錄としてローマ人の

手に殘つてゐるものは只裁判所の犯罪に關する帳面の一隅に生年月と刑の種類と刑の執行年月を書ける一二行の文字に過ぎない。一見かくつまらないものゝ中からローマ人が意味を認め得なかつたのは蓋し至當の事である。然るに今日では此イエスこそは世のスリキトて世界文明の原動力であることが解つた。

斯くの如くに歷史的事實の批評には色々の考へが出て來る。而して最も誤つた批評をする者は或時代に生存してゐて其時代の批評をするものに多い。それで今自分は十九世紀に生存して居り乍ら十九世紀の評論をしやうとして居る。自分でも自分の此企てが大に可なる所以が解らない。或はローマ人の愚を再演するかも知れない」と。

以上はステツト氏が本當の勢力は隱れて居て上部にないから歷史的事實の批評判斷が如何にも六ケ敷いと云ふことと申したものでありますが我々は尊敬して此言を聞かんとするものであります。『棺を蓋うて名定まる』とは世間でよく云ふことであるけれども棺を蓋ふた位の時に其人の價値が容易に解るものでない。然らば即ち此あてにならぬ世評などを相手にして生活するなどは愚の極と云はなければならぬ。然らば吾々は何をあてにして生活するかと云ふ問題にぶつかる。吾々が此問題に對する答は簡單なるものである、造物者が此世の中に種々雜多の人間を作り遣はし給ふた理由を考へて見ると何か其處に面白い意味がなければならぬ。思ふに彼は我々に同じことをさせる積ではなくて我々人間の種々雜多な個人の美點を利用して自が榮光を此世に輝がさんとしてゐるらしい。して見れば我々人間に取て最も大事なことは先づ己れの美點――若しあれば――を見極め其美點を充分に發揮することにある。我々は極力自分の美點を發揮し刻一刻に自分の勢力を蓄へて活動することかの水の如くでなければならぬ。何處までも自分の信念にたゝなければならぬ。此廣い〳〵世の中に於て我々は何に依て生活して行くかと云ふに自分の有つてゐる個人性の美點を發揮して其價値に滿足するの外はない。我々の生活の大方針を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

定めるのは全知全能の我々の造り主であることは言ふまでもないことであるけれども、其について大事なものは我々自身の氣分氣持である。若し一念向上の心だにあらば我々の持ち前の性質は道を指し示して吳れるには相違ない。若し一旦正しき道にふみ入たならば何物をも恐るゝことない。木が青々と榮へるが如く水が力强く自由に流るゝが如く自由に活潑に己が力に發揮して行かなければならぬ。かくの如くなれば一生を蓬蒿の間に埋めるとも悔ゆることはない。何となれば眞の力は常に隱れたる處に發揮せられて居るが故に。丁度かの草に於けるが如く木に於けるが如くに、水に於けるが如くに、キリストに於けるが如くに。

我々は世の俗說に拘泥して自分の虛榮心の奴隷となることなく自由に力强く勢力を現はさなければならぬと同時に、人の信仰思想を自由に批評することを愼まなければならない。そは前にも申した樣に天は我々に個人性と云ふものを與へて働かしてゐるのであつて見れば宇宙の秘密は眞にどの個人に働いてゐるか全く解からぬのである。それで人の批評などに乘るのも愚であるが、自分の狹い量見で人を批評するも愚かなことである。そんな無駄なことをするよりも大切なことは自分の行くべき道を發見し、其道を氣根のつゞく限り自由に走り行くことである。決して自分の力を世に無理に現はさうとしては行かぬ。勝海舟と云ふ人の話に我々は人の評判や歷史の云ふ所を恐れてゐては何一つ出來ぬと云ふことがあつた。海舟先生は能く隱れたる勢力の意味を呑み込んで居られたと見へる。

少女グウェン

（スカイ、パイロットの一節）

辻村清子
河井道子
合譯

グウェンの初戀り

約束通りに自分は愈々此少女を教へることになつた。自分は欣んで其仕事にとりかゝつた。といふのはこのグウェンと云ふ少女は前にも云つた通り随分氣の勝つた我儘な亂暴者であるにはあるだけれども、心底には何となく優しい人好きのする處があつたから。つまり自分もグウェンの餌についてゐる多くの人々と同じやうに、いつの間にか彼女に擒になつてしまつたのである。

日々の御稽古は先づうまくいつてゐる。なれども其も氣に向いた時だけて、教へる勞よりも教はらうと云ふ氣持にするのが何より骨折れた。どちらかと云ふと讀書は好きて上達も早かつた。それは縷々自分の大好きな公爵と綽名せられてるものが話して聞して呉れた、色々面白い話が丁度本に書いてあるからである。併し筆をとることは此上もない嫌ひて『私文をかいてやる人はたつた一人もないのに、なんだかわかりもしないものを書くんだつてつて、指をひん曲げたり座つたり俯向いたりするのは可厭』と云つて、目を据えて怒る。それでも事に依ると筆を持つてることもある。そして『之はネ、牛や馬を買る時に欺かされない用心になるから』などゝ理窟をつける。何ても覺えること習ふことが目の前に役にたゝないと氣に喰はない。引つゞいて來た冬の間根よく教へはしたもの、随分骨が折れた。餘り我儘を言ふ時は父親に訴へても見たが駄目てあつた。父親は全く此少女に擒にせられてゐる。怒つて色々父親に迫る時は勿論、嬰兒のやうに甘え初めるとなると父は尚更のこと當惑して従つてしまふ。細いけれども肉づき豐かな腕を父の頸に卷きつけ、海藻の如き色した髪の毛を振り亂して希ひ求むる時は正直な父親は只々ゴ〱してゐるばかりてある。只デュークの言ふことだけは事に依ると聞くことがある。或時にはデュークを欣ばせるためひん曲つた字と云つて輕蔑してゐる文字を少時位せつせと御稽古したこともある。併し其もほんの一時に過ぎない。

『どうしてそんなに學問しなければならない?』と反身になつて頭髪を振りみだしてデュークの小言に答へた。とんでもないと云ふ様な目つきをして半ばさげすんだ調子て更に『何故てばよ』と追窮する。

デュークも今迄は笑顔を見せてゐたが轉て全く愛想のない顔付て冷々淡々たる調子て『そうされ、わしにも譯は解られい』と返答してクルッと背中向ける。するとグウェンは突然デュークに飛びつき彼が手をちぎれる許りに引つ張り、泣き出しそうな聲て『そんなつんけんどうに言はなくつてもいゝ。そんな馬鹿にしなくつたつていゝ』と云ふ。それて『なぜ其様に人に背中を向けるの!?!』と云ひさま噛りつきそうにする。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

デュークも不興になつたものか、急に姿をかへて『謝罪つた。謝罪つた。堪忍してくんな、俺もお前が前で困るだらうと思ふから言ふんだ。解つた？許して呉れる？』とあやまると、グウエンもすぐに機嫌がなほるのである。優しいうるんだ目を光らして彼を微笑乍ら見詰めてゐる。それでも明瞭口に出して謝罪つたり何かしない。けれども其後一度默々をこれでやめてゐた勉強にとり掛つたのを見れば充分機嫌がなほつたことがわかる。此事のあつたのはグウエンの住める牧場からずつと離れてゐるスチン、クリークと云ふ名もなき町にスカイ、パイロツトと云ふ一人の宣教師が來てからのことてある。一日デュークはグウエンの家にいつて其歸り途に自分に云つた。『どうも彼女には信仰てもないと險難だ、可愛相だ。そうてないと可愛い女の子一人だ いなしにして仕舞ふ。どうだらう、パイロツトに來てちつと彼女にいろんなことを聞かして見ちや。』

『それはいゝとした所で生ぬるい牧師の説教など聞いてゐるか知らんて』

『さあ、それがさあ』と云ひ乍ら更に『それでも貴君から御話し下さるまいか』と云ふ。

そこで或日のこと、機嫌をとりそこれない樣色々考へた揚句デュークの考へを頻に話すと、果然彼女はつんとして『デュークがあなたにそんなこと云つて？其人が私を躾るつて？おゝ厭だ。私そんな人大嫌ひ！』といつてのける。それから何と思つたか其日は一日何にもしないで遊んでゐる。それてデュークがやつて來たのを見て『お前こゝへ牧師さんを連れて來るてつたつてネ。私そんな人なんか大嫌ひ。私好い女になんかなりたかない。もうすつかり忘れたの？家のお親父樣に其人のことを話して馬鹿にして笑つてやしなくつて？そんな人御免だ』とだしぬけ頭から罵れつける。

『そんなこと言つた覺へないかれ。どうしてそんなこと知つてゐる。いつそんなこと言つた。』

『ほら、いつかあんなに笑つた時に』

『左樣だつたつけ』と行きづまる『然うだつたなあ。雖然何よ、其から隨分たつてるわ。どうして〳〵今ではしつかりしたもんだ』

『だつたつて今でも始終馬から墜ちるだらう』とさげすむ樣にいふ。

『なあに、今ぢや確乎したもんだ。』と吹き出しさうなのを耐えて云ふ。

『そいてゝ未だ小僧子見たいだらう。だつてヒルがそう云つたもの』

『然うさ、少し年は若すぎるかも知んれい。てもだん〳〵に大人らしくなつてる』

『あゝ、なんてつまらないだらう。そんな人が此處へくるなんて、御免だ』

グウエンが是程いやがるパイロツトは數日後に遂にスチン、クリークからくるやうになつた。それはかりかグウエンは遙か下の方の名高い谷の渡し場にお迎へに迄行つたのてある。それは八月の恐ろしき暴しの日の夕方てあつた。

『私が助けなかつたら、此人溺れて死ぬとこよ』と家へ這入り乍らあざみ笑ふが如く自分に話しかける。

『ナーニ、どうかこうか渡れる事は渡れる所てした。ルイ(馬の名)が又丁度あの時元氣づきだしたもんだから』とびしよぬれになつたパイロツトが辯解する。

『ふむ、どうして〳〵。今頃は谷に流れ込んで死んでる所なんだよ。お禮云はなけやならないのになんてんだらう』

『有難いにや有難いけど。だつて私は前にもあの渡しを渡つたことある

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

んだもの」と云ふ。

「そりや今日の樣な時ぢやないんだ」

「もつとずつと水勢が疾い時」

「そんなら岸があんなに險崖になつてゐない所てだ」

「そりやそうさ」

「そうら御覧なさい。彼處て私が綱をなげてやらなかつたら命はないんだよ」と大勝利を得た樣に顔をかゞやかす。パイロットも澁々これに從ふ。

　牧師と云つても名ばかりて、偉いには違ひないけれども小娘に對してなか／＼負け惜しみを云ふ處などまだ／＼小供らしい所が多い。グゥエンと同じ樣に感情家て想像力に富んてゐて解りがいゝ。父がグゥエンの部屋へやつてきた時にグゥエンは何は扨て置きパイロットが溺れ死にしやうとしてゐる所を救つた事から紹介する。パイロットがいやな顔をすると怒つて又遮り込めやうとしたが、パイロットが慌てゝ謝罪るので漸くにして事なきを得た。グゥエンの父は困つてしまつたらしく見える。彼は氣象を知つてるから自分の娘をきめつけることもならず、さらばと云つて客にあやまれば娘が怒るし立往生してゐる。パイロットの方ては初めての訪問が餘り あつけなか つたので御茶がすんて から歸らうとする。するとグゥエンは全く態度をかへていかな／＼歸さうとしない。如何にも情けないといふ樣な顔をしてゐる。

「御親父樣。止めて頂戴よ」と囁いてゐる。されども父のすゝめは充分にパイロットを欣ばせなかつたのみならず、パイロットは煮え切らない勸め樣に寧ろ怒りをなして愈々立ち去ることに決心した。グゥエンの失望は一通りてはない。と云ふのは之迄彼女は色々の人に當つて見るけれども皆彼女に譯もなく從つてしまうので世の中にこわいものなして、多少人を馬鹿にしてゐる氣味があつたのか若い美しい併し毅然つとしたパイロットばかりは話しても應へがあるやうな氣かせらるゝのてあづた。それて何となく懐しくなつたのてある。父上の勸めやうが手ぬるいのて「暴風雨はだつて先刻からひどいんてすよ。それはかりてなく、どうして貴兄にスチン河が渡れやしなくつてよ」と云ふ。少女の心ては斯ふ川の事をいつたらば多分パイロットも閉口するてあらうと思つたのてあつた。所が其言は一向きゝめがなかつたのみならずパイロットは却つて立去る決心を固めた。

　パイロットが愈々歸ると云ふので自分もクゥエンも彼女の父も共に見送つてスチン河の渡し場まて下つて行つた。案の如く水は今や溢れ漲つて、土堤ははや既に全く水に隱れて物悽い程てある。パイロットの馬は飛び込まんとする氣色がない。勵まされてやつとのことて威勢をつけて跳り込んだ。泳いて川の中程迄出たかと思ふ頃パイロットはドット流れてくる水に浚はれて馬から落ちた。それても或は頭につかまり或は馬の鐙につかまりし乍ら馬の横について泳いていたが、此時馬は迚も先きの土堤につくことが六ヶ敷と見てとつたか、引返し初めた。されど引かへしてきた所は元出た處よりは遙か下の方てあつて土堤が高くて上ることが出來ない。馬も人も水をかぶつて進退茲に窮してゐる。

　先刻より心配して見てゐたグゥエンは引き返してゐる馬を見て樣々威勢をつけてゐたが、馬が岩ばかりの高い岸の下て苦んてゐるのを見て、愈々聲を張り上げて「下へ／＼、こゝへ／＼」と叫んだ。丁度いゝ處に馬が流れ着いたと思ふ頃例の羂索を投げて馬の首に掛けて引き寄せ或は首を捉へ或は馬の鞍を捉へ陸に引き擧げんとする馬は ざまの悪い風て漸く上陸することを得た。それと共に パイロ ットも引きずり擧げられた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

デュークも不憫になつたものか、急に姿をかへて「謝罪つた。謝罪つた。堪忍してくんな、俺もお前が泣て困るだらうと思ふから言ふんだ。解つた？許して呉れる？」とあやまると、グヮエンもすぐに機嫌がなほるのである。優しいうるんだ目を光らして彼を微笑乍ら見讀めてゐる。それでも明瞭口に出して謝罪つたり何かしない。けれども其後一度駄々をこれてやめてゐた勉強にとり掛つたのを見れば充分機嫌がなほつたことがわかる。此事のあつたのはグヮエンの住める牧場からずつと離れてゐるスチン、クリークと云ふ名もなき町にスカイ、パイロットと云ふ一人の宣教師が來てからのことである。一日デュークはグヮエンの家に行つて其歸り途に自分に云つた。「どうも彼女には信仰てもないと險難だ。可愛相だ。そうでないと可愛い女の子一人だいなしにして仕舞ふ。どうだらう、パイロットに來てちつと彼女にいろんなことを聞かして見ちや。」

「それはいゝとした所で生ぬるい牧師の說敎など聞いてゐるか知らんて」

「さあ、それがさあ」と云ひ乍ら更に「それでも貴君から御話し下さるまいか」と云ふ。

そこで或日のこと、機嫌をとりそこれない樣色々考へた揚句デュークの考へを頻に話すと、果然彼女はつんとして「デュークがあなたにそんなこと云つて？其人が私を躾るつて？おゝ厭だ。私そんな人大嫌ひ！」といつてのける。それから何と思つたか其日は一日何にもしないで遊んでゐる。それでデュークがやつて來たのを見て「や前こゝへ牧師さんを連れて來るてつたつてネ。私そんな人なんか大嫌ひ。私好い女になんかなりたかない。もうすつかり忘れたの？家のお親父樣に其人のことを話して馬鹿にして笑つてやしなくつて？そんな人御免だ」とだしぬけ頭から剣れつける。

「そんなこと言つた覺へないかれ。どうしてそんなこと知つてゐる。いつそんなこと言つた。」

「ほら、いつかあんなに笑つた癖に」

「左樣だつたつけ」と行きづまる「然うだつたなあ。雖然何よ、其から隨分たつてるわ。どうして〳〵今てはしつかりしたもんだ」

「だつたつて今でも始終馬から墜ちるだらう」とさげすむ樣にいふ。

「なあに、今ぢや確乎したもんだ。」と吹き出しさうなのを耐えて云ふ。

「そいても未だ小僧子見たいだらう。だつてロルがそう云つたもの」

「然うさ、少し年は若すぎるかも知んれい。てもだん〳〵に大人らしくなつてる」

「あゝ、なんてつまらないだらう。そんな人が此處へくるなんて、御免だ」

グヮエンが是程いやがるパイロットは數日後に遂にスチン、クリークからくるやうになつた。そればかりかグヮエンは遙か下の方の名高い谷の渡し場にお迎へに迄行つたのである。それは八月の恐ろしき暑しの日の夕方であつた。

「私が助けなかつたら、此人溺れて死ぬとこよ」と家へ這入り乍らあざみ笑ふが如く自分に話しかける。

『ナーニ、どうかこうか渡れる事は渡れる所てした。ルイ(馬の名)が又丁度あの時元氣づきだしたもんだから』とびしよぬれになつたパイロットが辯解する。

「ふむ、どうして〳〵。今頃は谷に流れ込んで死んでる所なんだよ。お禮云はなけやならないのになんてんだらう」

「有難いにや有難いけど。だつて私は前にもあの渡しを渡つたことある

んだもの』と云ふ。

『そりや今日の樣な時ぢやないんだ』

『もつとずつと水勢が疾い時』

『そんなら岸があんなに險崖になつてゐない所てだ』

『そりやそうさ』

『そうら御覧なさい。彼處て私が綱をなげてやらなかつたら命はないんだよ』と大勝利を得た樣に顔をかゞやかす。パイロットも渋々これに從ふ。

　牧師と云つても名ばかりて、偉いには違いないけれども小娘に對してなか／＼負け惜しみを云ふ處などまだ／＼小供らしい所が多い。グウエンと同じ樣に感情家て想像力に富んてゐて解りがいゝ。父がグウエンの部屋へやつてきた時にグウエンは何は扨て置きパイロットが溺れ死にしやうとしてゐる所を救つた事から紹介する。パイロットがいやな顔をすると怒つて又遣り込めやうとしたが、パイロットが慌てゝ謝罪るので漸くにして事なきを得た。グウエンの父は困つてしまつたらしく見える。彼は氣象を知つてるから自分の娘をきめつけることもならず、さらばと云つて客にあやまれば娘が怒るし立往生してゐる。パイロットの方では初めての訪問が餘りあつけなかつたので御茶がすんてから歸らうとする。するとグウエンは全く態度をかへていかな／＼歸さうとしない。如何にも情けないといふ樣な顔をしてゐる。

『御親父樣。止めて頂戴よ』と嘯いてゐる。されども父のすゝめは充分にパイロットを欣ばせなかつたのみならず、パイロットは煮え切らない勸め樣に寧ろ怒りをなして愈々立ち去ることに決心した。グウエンの失望は一通りてはない。と云ふのは之迄彼女は色々の人に會つて見るけれども皆彼女に靡もなく從つてしまうので世の中にこわいものなして、多少人を馬鹿にしてゐる氣味があつたのか若い美しい併傲然つとしたパイロットばかりは話しても應へがあるやうな氣かせらるゝのてあつた。それて何となく懷しくなつたのてある。父上の勸めやうが手ぬるいので『暴風雨はだつて先刻からひどいんですよ。そればかりてなく、どうして貴兄にスナン河が渡れやしなくつてよ』と云ふ。少女の心ては斯ふ川の事をいつたらば多分パイロットも閉口するてあらうと思つたのてあつた。所が其言は一向きゝめがなかつたのみならずパイロットは却つて立去る決心を固めた。

　パイロットが愈々歸ると云ふので自分もクウエンも彼女の父も共に見送つてスナン河の渡し場まて下つて行つた。案の如く水は今や溢れ漲つて、土堤ははや既に全く水に隱れて物凄い程てある。パイロットの馬は飛び込まんとする氣色がない。勵まされてやつとのことて威勢をつけて跳り込んだ。泳いて川の中程迄出たかと思ふ頃パイロットはドット流れてくる水に浚はれて馬から落ちた。それても或は頭につかまり或は馬の鐙につかまりし乍ら馬の横について泳いていたが、此時馬は迚も先きの土堤につくことが六ヶ敷と見てとつたか、引返し初めた。されど引かへしてきた所は元出た處よりは遙か下の方てあつて土堤が高くて上ることが出來ない。馬も人も水をかぶつて進退茲に窮してゐる。

　先刻より心配して見てゐたグウエンは引き返してゐる馬を見て樣々威勢をつけてゐたが、馬が岩ばかりの高い岸の下て苦んてゐるのを見て、愈々聲を張り上げて『下へ／＼、こゝへ／＼』と叫んだ。丁度いゝ處に馬が流れ着いたと思ふ頃例の羂索を投げて馬の首に掛けて引き寄せ或は首を捉へ或は馬の鞍を捉へ陸に引き擧げんとする馬はざまの惡い風て漸く上陸することを得た。それと共にパイロットも引きずり擧げられた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『そら御覽さい。踊れやしないと云ふのに。でも嬉しかつたわ』と嬉し泣きでもしそうな樣子。
喘ぎ跟き乍ら寄りついたパイロットは云つた『ナーニ、踊れる!』
少女は飛び寛つて行き實然パイロットを投げた。仰向にひつくり返されたる哀れなパイロットは稍々暫らくしてそこへ座り込んで茫然してそこちを見廻してゐる。
『ルイ(馬の名)はどこへ行つたらう』
『馬?馬は大丈夫よ。だつてこんな日に迚もこゝ踊れやしないわ。雨はだん/\きつくなるんてすもの。家へ行きましよう歸りましよう』
パイロットはまだぼんやりして尙もクル/\當りを見廻し、『いや、踊る/\』と云つてゐる。
グヮエンは少し勘癪を起したが『だつて踊れやしないわ。馬があゝなんてすもの』と慰めるやうに云ふ。グヮエンの父も側から一緒になつて暴風雨が息むまで家に止るやうにとすゝめる。茫然してゐたパイロットも漸く我に歸つて河の面を一瞥するや否や遙か彼處なる山の上の家を眺める。
變化の多い日も、はや既に暮れかゝつてゐる。年若いものゝ常としてまだいくちもたゝない間に家内の勝手を皆心得たるパイロットは、身にグヮエンより貸し與へられたる乾ける着物を着け、樂器の側へ行つた。このオルガンは實に十年の久しき何人の手に觸れられながつたのである。彼は愈オルガンを奏し初めた。傍にたつて娘と共に聞いてゐたひとりものゝ父はホロリ/\涙を流してゐる、パイロットがアイルランドのいゝいゝ靜けき夜な/\と云ふ歌を歌ひオルガンをひきだした時には可愛想なる父は悲しげなる吐息を漏した。
『そ……それはこれこの娘の母が大好の歌だつた』と云ひ何かに怖ぢ恐れてゐるやうにパイロットに許り添うてくる。それからパイロットはかの主よみもとに　ちかづかんと云ふ讃美歌を歌ひ初めたのであつた。老人の粗くれた皮膚の眉間は輝き始めた。パイロットが音樂のあと祈りを致しませうと云ふに老人は困つた樣な風で娘の顏を眺めた。娘は父が平常と打變つて眼を濕ほしてゐるのを見て怪訝な顏で父とパイロットを見乍らパイロットが何か厄介なことを持ち出して父を困らせてゐるとでも思つたか、多少パイロットを咎むるやうに『此人御親父樣何を言つてるの』と尋ねた。
『好くないと思つたけど祈りなんてこと永年しなかつたゞ。此娘の母は大層信心深くつてれ。でも祈禱を御願ひしませう』と云つて次の部屋へと立去つて古びた聖書を持つて來た。
『これは此娘の母ので』と云つたが最早二の口はつげない。顏には僞善の情充ち溢れ聲はどことなくふるへてゐる。『此本はわしが此娘の母を向ふの丘の松の木の下に葬つた次日行李に抛りこんで置いた儘今迄觸らなかつたんだ』若き牧師パイロットは手にバイブルを受けとり乍ら故意と彼の顏を見なかつた。否氣の毒で見てはゐられなかつたのである。
『それはまことに御氣の毒なことだ。でも母は……いや悔むだつて仕方がない』
『いや私も最早過ぎたこつたから思やあしませんがのでも昔しは辛うありました。何より此娘が可愛想で』と云ひもあへぬに日にやけた赭色の額の下に隱れてゐる目から愈々しげく涙を零れてゐる。
パイロットは最初の間は知らざる風似をしてゐたが、今はそれも致しかねて、その親でゞもあるかのやうに手はグヮエンの父の肩にかけて涼しき明晰した情け深い聲で云つた。
『また逢ふことが出來ますよ』

可愛想なグウエンはこれを見て驚き目を丸くして佇立つてゐる。何故かと云ふと彼女は母がなくなつた時に父が泣いたのを覺えてゐる外は泣いたのを見たことがなかつたてある。母が死んだ時に彼女の父は白い布を掛けられて寢床の上に横はつてゐる母の側に跪まづき乍ら息が止らん計りに苦んでゐた。自分が母に抱いて貰はうとして床に上り初めるのも知らなかつた。併し漸くにして其に氣がついて慌てゝ泣き乍ら少女を抱き止めた。グウエンは此時のことをぼんやり覺えてゐる。それからこのかた彼女は父の泣いたのを見たことがなかつたのてある。現に阿父が今口唇をば嚙み涙を流して堪え難い苦痛に陷つてゐるのを見ては只事てはないと思つた。それて父の側近く寄り添うて父が灰色の髮の毛を撫て乍らパイロツトの顔と父の顔とを見比べてゐる。軈て稍々怒りを含んでパイロツトを睨まへ『彼人何かいけないことを言つて！御親父樣。彼人が御親父を泣かせるの？』

『そうぢやないよ。そつとしてこゝえ座つて聞いてな』と父はあやすやうに云ふ。

斯くてあるべきにあらねばパイロツトは世の終りまで消えぬ愛の話をせんとて聖書を取り上げた。我等三人は共に傍らに座つて聞いてゐる。見ると父は遙か遠方の方を眺めると云ふ目つきてゐるし、娘は顔を次第〳〵にパイロツトにすりよせてゐる。雨風は盛んに戸の外に暴れてる有樣。

パイロツトか次第に話しをすゝめると小女は驚いて問うた。『これは御親父樣本當の話？嘘の話？よ、敎えて頂戴よ』話はパイロツトが音樂的の聲と共に層一層面白くなるのてある。父は一心になつて話しを聞いてたが、少供の間に動かされて『本當の御話だよ。よく聞いといて。』と答へてゐるかと思ふと、拍子拔けに『神よ我れを許し給へ』と云ふ。

暫らくにして話か一段落を告けたのてパイロツトもホツト一息ついて『後は明日にしよう』と云ふ。

娘は躍起になり命令的に『いや、今晩てなきやいや。』と云ひ更に今度は御願するやうに『今讀んて御話しゝて聞かして頂戴よ。さあよ』とねだる。それて又調子をかへてぢだんだ踏み乍ら『さ聞くかさ。これだぞ!!』と威赫す。

パイロツトも暗闇の中から度々威かされてゐるけれども又何をされるのか知らんと思つて老父の方へ振り向き『如何しませう』と尋れる。

『どうぞおやり下され』と願はるゝ儘に聖書を讀んては又語り出した。キリストが病人や貧乏人に同情し色々不思議なる動きをなし給ひしことや其外色々耳新たなる事を聞いて娘は夢中になつてゐる樣子。それて時々父や自分の方を顧みては『本當にあつたこと？え？みんなほんとう？』と尋れる。自分は勿論本當だと答へてやつた。其等の話は我々三人には度々聞いたことてあるけれどもグウエンには全く新しい話て、めづらしそうに聞いてゐる有樣がパイロツトにもわかるので、彼も出來るだけ力瘤を入れて話しする。彼の顔は輝き眼は燃えるが如くてある。話しゝてゐる方て却つてインスピレーシヨンに打たれてゐるかの如くてある。自分は前からパイロツトを知つてゐるし其の後も永く交際してはゐたけれど此晩の話は實に空前絶後の上出來てあつた。福音書中の偉人が目の前に躍動し我々は或は彼が盲人に接して眼病を治してやり或は彼の山の上て多く集れる人々の中にたつて勇ましく說敎してゐる有樣などを聞いをたゞ驚くのみてあつた。

パイロツトは一時急に御話しすることを止めたが、次の頁にうつつて再び語りだした。『イエスはベタニアまで此人々をつれておいてなされてそこて兩手を擧げて其人々を祝し惠みと力とを與へてやり御別れの言を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

云つて上へ昇りなされました。そこで雲が下へ垂れてイエスを包んでそれて御姿は見えなくなりました。』これでイエス一生に關する話の大體がすんだ。が、誰一人も一言も言はないで默つてゐる。グヮエンは別世界にでも連れ込まれたやうに茫としてゐたが『それから何處へ御出てになつたらう？』と尋ねる。

『天國へ御出てになつたのさ』とパイロットは輕く答へた。

『そいぢや、家の御母樣がいらした所だ。ねい父さん』と云ふ。父は只うなづくのみ。

『エス樣は母さんを御存じなの』父は問はれて只愁然としてゐる。

『それやそうさ。それどころかエス樣は天國でいつも母樣を見ておいでなんだ』

『まあいゝね。ね御親父樣』

父が双手で顔を隱し、呻吟いてゐる樣は誠に氣の毒であつた。

『エス樣は御母樣を御覧なすつてる計りでなく私達の話すことゝすること考へることゝみんな御存じなんだ』

母が天國に行つたと聞いて多少喜んでた彼女は父が目の前でひどく心惡煩つてるので又心配してゐたが、パイロットの此最後の言を聞いて又多少怖れをなしたのである。此話は生れてから以來世の中と掛け離れ鳥獸と生活してる彼女に兎も角も力ある人間社會の經驗を與へた。天はパイロットと云ふ青年教師をロッキーの山の上遠く遣はし給ひて野中の一人娘にキリストの福音を傳へしめた。そこで此福音は纔かに新しい生命を女に與へた。自分等三人が祈禱を初めた時にグヮエンはしようことなしに只立つて我々のすることを見てゐたが、段々と父の傍へ寄りついて、兩手を父の首に卷きつけてゐたが、遂に父の體にしがみついた。我々の祈る言の内にイエス或は神樣と云ふものがあつたので彼は半ば恐く半は嬉しくなつたのであらう。これをしも祈と云ひ得べくんばこれがグヮエンが生れて以來の初祈りである。（第二章終り）

物見岩　下

ヴァン、ダイク作

原口生譯

其次日は日曜日である。何となく暖かくほかほかする天氣であつた。時は十一月であるに係はらず雛菊など此處彼處に咲いてゐる。キーンは朝自分と共に家を出立してから以來盛に喋り立ちてゝた彼の言う所に依れば人生の至樂人生の事業は明析な而も普遍的な智識を得ることで世俗の重んずる實際生活の如きは只盲目的なだるい習慣に過ぎなかつた。大抵の人は自己の好まない又自分の精神の要求に訴へて滿とせられないものでも習慣とか仕來りとか云へば諾々として盲從してゐる。決して事の終局まで見通すが如き徹底した考へを持つてゐない。又夫の所謂哲學的生活と雖も之れと一般である。彼等哲學者は蜘蛛の如く組織的に立派に編み上げた學說を生み出す。併し其學說は世の實際と只處々接觸するのみである。活潑たる生氣がないのも無理はない。蜘蛛の巢といふものを通して世間を見れば何となく朦朧に見えると同じく、哲學說などを通して世間を見れば矢張り世間が漠然してゐる。理論や想像で世間は分るものでない。本當の智識は實見に限る。觀察に依て得た智識が本當の智識である。だから、世界否全世界を奥の奥まで見通し、本を讀む樣に世間が

讀める樣になつたら人生の幸又これにすぐるのもは無からう。之が彼が朝から述べ來つた言の梗概(あらまし)である。

それで山を攀ぢ谷に下つて元自分がキーンと遇つた處に來た時には彼の口調には一層の熱を帶び目は著しく輝き初めた。

『貴兄と御知り合ひになつてから私の平生の考へを御話しゝようと思つてゐました。私は貴兄が必ず私の言ふ所を御了解下さると思つて。今私は本――眞の意味に於ける本――を書かうと思つてゐます。人生觀を發表する譯です。歴史的の研究でもなければ議論でもありません。人間生活の裏に隱れてゐる生活上の活機と色々複雜な觀察とを赤裸々に描寫するのですれ。社會一切のことは世俗が夢想してゐるのとは違ひます。人生の眞相は纖細で隱微で從つて興味多く不思議です。未だ誰れも私が企てゝゐる樣な本を書いてません。多分私と同じ處に觸れないからでしやう。私は其本の名をバイオノプシスと名けます』

『雖然(すれども)、あんな學校はそんな本を書くには不適當でしやう。あんな靜寂な世間から隔絶した處では。人情の流れの彼處稍微弱に緩く流れてゐる處はないでしやう。其故人間を描寫しようと思へば活社會に出て強い流れに浴し其強い勢力を感じなければ駄目でしよう。而して活社會の活劇に加はらなければ駄目でしよう。』

彼は驚いたやうな風で言つた。『そうぢやありません。活動なんて言ふものは人を愚にします、マッシュー、アーノルドの詩中にも人の世の、ものさはがしき巾に卷かれて、」と云ふ句があります。人生を知らうと思へば我々は其と掛け離れ超然としてゐなければいけないと思ひます。瞰下(みくだ)さなければいけません』

『人生と隔絶して居るは先づ善いとして、君は人生觀を得ようと思つて居られるならば何か觀察の立脚點と云ふものを御持ちですか。インスピレーションの泉を御存じですか』

彼は暫く私の顏を見てゐたが、突然『それですか、其は私は發見しました』と云つて茫然(ぼんやう)した如くにして叫んだ

それからキーンは一散に疾驅して林の中を突つ切るので、漸くにして自分は彼の後に附いて行くことが出來た。行くこと數分時の後我等二人は小川の邊に來た。キーンは其丸木橋になつてゐる倒木の上に腰打掛けて、私にも坐る樣にすゝめて、

『私は今日貴兄に譯を御話しすると申しました。私の例の長途の遠足に御迎致れすと申しました。實は私の遠足に行く處は只一つしかないのです。そうです一つです。何處に私が行くか又如何いふ譯で行くか貴兄(あなた)が早く御解りになる樣にしたいです。私の秘密、若し秘密と云ふこと出來ればそれを打ち開けたいです。見事ですよ、喫驚(びつくり)しますよ。隨分不思議なことをすると御思ひでしたらうれ、私にさえ往々解らないことをすると思はれましたので。隨分疑惑心配煩悶に陷入りました。私はそのため大事なもの、人も又人世の至幸とする所のものを棄てんとして居りました。併しそれは如何も仕樣がないです、別に大切な事があるのですから。いや、私は一生の大發見、一代の大發見に出遭ひまして、どうしても其を棄ることは出來ません。否却て私は其を利用しなければなりません、大に利用しなければなりません。そのためには如何な事でも犧牲にしなければなりません。えゝ無論公平に判斷して戴きたいです。其に就ては玆に一つの約束をして貰ひたいです。今私が御連れ致す處に三度貴兄が御出でなさる迄は私の行動を誰れにも打ち明けたり私の事に就て是非の判斷を下さないで置いて戴きたいです。』

此時自分は考へた。自分は到底尋常一樣のことに關係したのではない。キーンのする事は遠く常軌も逸したる不思議なことに相違ない。彼がす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る事を判斷するには尋常一樣の考へでは行かぬ。假へばキーンの頭の調子が狂つてゐて其することが狂的であらうとも適當な時間と用意周到の研究なくしては判斷は出來ぬ。而して自分の判斷はキーンの一生に關係して居るのみならず累を他にも及ぼすのであるから先づ注意と忍耐とが必要だと思つて暫く判斷を差控へることを彼に約束した。

彼は跳れるが如くにして立ち上り『御出でなさい。行きましよう』と聲高く叫び乍ら小川の原の方に足早に進み行く。眼には喜びの色が輝いてゐた自分は此時の如き亂暴な遠足をしたことがない。彼は網み合せた樣になつてゐる白樺樹小さい樅の木の叢、倒木、岩山、地辷り等を氣にして避けて通る風はなく、其中を突き切つて眞一文字に進んで行く。成程此等の物を通して細い一條の道が見られるのは彼が前に此處を往き來した名殘であらう。秕と覺ゆる頃我等兩人は辨當を食つた。キーンは衣囊より小さい鑵の箱を取り出し、す〻けた樣な綠色の塊二三粒を取り出して飮み込み、側の水溜で思ふ存分に水を飮み、顏に付いた水を拂ひ壓し乍ら『不思議でしよう。遠足する時には辨當は邪魔になります。併し小さな此糊樣の粒は苦いけれども元氣を附けるのに宜いです。大變に興奮させるし力が急に增す樣です。併し馴れない人には勸められません。いやな香ですよ』と云つた。

彼は再び口中を洗つた。而して立ち上るや否や急いでついて來る樣にと自分に云ふ。道は南へ〳〵と展びて名もなき山頂の上を何箇ともなく通り越した。處々谷底に下りることもあれど大底は登り坂のみである。行くこと未だ久しからずして大木を以て覆はれたる森林の內へ來たが樹が大きい丈に步行には大變に樂であつた。其樹木の間を登つて我々は縱の木で覆はれたる山の嶺にきた。其樹木は只僅かに人間の背丈の二倍位であるけれども木の幹はどれでも皆太きく隙間もなく立ち葉は一面に繁り擴がり殆んど空を見ること出來ぬ程であつた。併し彼處此處の葉の間から見ると我々が登り上つた處は是迄登つたどの山よりも高く擢て〻居ることが分つた。

我々の向ふ二三間の處に灰色の岩が木の幹の間から見えた。一寸城の塀の樣である。善く見ると岩は實に目に餘る程の大岩で山の頂に重なつて宏い〳〵青葉の海を見下してゐるのであつた。其岩の下の方には石がごろ〳〵してゐる處もあるし洞窟の如くに穴の開いた處もある。穴の開いてゐる他の方面には深い裂け目があつた。

『用心しないといけませんよ。何でも其處いらに響尾蛇の窩がありますよ冬だから引き籠つて居りますけれども踏みでもすると擊たれますよ。此方に御出でなさい。手を御出しなさい。え——そうです——足を其岩角に附けて此木に攫まりなさい。——大丈夫です——そうです。こ〻が望遠岩です。御存じでしたか。人が色々評判はしてゐますよ。併し其は此處から五哩も東の方の低い山の上にあるのですよ。未だ誰れも此は知りません。而して此岩は本當の望遠岩ですよ。地球上に之れ位の見晴しよき處はありません。世界の國々は大抵見えるし其光は又能く見えます。どうです』

誠に壯大な眺めである。此大岩は他の山々よりは只僅かに高くなつて居る計りであるに拘らず、其眺望の遼大なること驚くべきものがある。眼界の宏まること實に不思議な位である。一百哩の半徑を以て劃した面積はらくに見ることが出來た。野も山も林も畑も河も湖も谷も村も町も輝く水も地上のもの一として目に映ぜないものはなかつた。而して我等が其處へ達した時には淡き西日が寶玉の色したる衣にて此等を包んでゐた。當りの光景が生き〳〵として心あつて笑を放つてゐる樣である。

『これは美事ですね。成程君は善い物見の岩を見付けましたね』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「吁々、貴兄には此處の景色の不思議は解りますまい。迚も其味は分りますまい。仕方がありません、始めてゞすからね。貴兄には遠望の魔力が乗り移つて居ませぬ。望遠岩の秘密が解つてゐませぬ。貴兄の目はまだ地平線と云ふものに妨げられてゐます」

「でも、君には地平線以外の處まで見えると言はれるのですか」

「貴兄餘程遠く見えます――え――そうです。貴兄の想像以上の處まで見へます。貴兄には南方に薄黒い煙の棚引いてゐる處や、其中にある黒點や、太陽の光で所々に光つてゐるものは見えますか。ニユーヨーク市ですよ。併し私は其ばかりでなく建築物、寺院、塔、波止場、町を歩く人波、海、出入する大船小船など殘りなく見ることが出來ますよ。私は船の進み行く道を後をつけて見ることが出來ます。否、其處が――一度此望遠岩に登れば私は人間の想像の及ばぬ所まで見ることが出來ます。」

斯く言はれて見ると自分までが彼の言に誘はれて視力の及ばぬ堺まで見える樣な氣がする。恐らく彼が精神の力が自分の想像力を誘導し去つたのであらう。併し理性の力が頭に還つて來た時に自分はキーンが到底駄目なことを話してゐることに氣がついた。

「君は夢見てゐるのでしよう。此處の空氣と景色とに醉つてしまつたのでしよう。それは妄想ですよ、迷ひですよ」

「貴兄に分らなければ仕方がありません。私は只自分の經驗（けいけん）を有りの儘に御話してゐるのです。人間の視力と云ふものは幾何でも修練せられるし擴大せらるゝものです」

「光線の性質から云つてもそんなことが出來るものですか。地球は彎曲になつて居るから眼界は一層狹くなつてきますぢやないか」

「不思議な作用がないとも限りません。一の場所ではそんなことなくつても或場所では光線が奇妙に屈折しないとも限らぬと思ひます。此岩の上には何か不思議な魔力がありますよ。此岩は力の座です――いや天地の觀測所です。今言つた丈でも愕いてゐなさる樣ですが、其より遙か澤山見えますよ。併し最早時間がありません。三十分程思ふ存分此景色を眺めて、それから家に歸ることにしませう。侘き家、束縛せられた生活に」

歸り路は山に登るときより早く容易くやつてのけることが出來た。學校へ歸つた時は日が暮れてから約一時間後であつたが、自分は疲勞に堪えなかつた。然るにキーンは頗る快活で活潑で神經が興奮して居る樣な風であつた。彼の精神は恰も焔の燃え宏がる時の如くであつた。

グラハムは待ち構へてゐて私が一人になる時を待ち構へて話し掛けた。

「變つたこともないとおつしやるのですか」

「そうです。先達のことは君の考へ違ひでしたね。キーンの散歩に實際少しも狂はしいなどゝ云ふ點はありません。惡いことはないです。併し何せよ變は變です。判斷するにしてもまだ早急に出來ません。暫く御待ちなさい。忍耐して失敗ることはありません。又私は自分にも人に話しないし運命の時期が來るまで又輕卒に判斷を下さないと、キーンに約束しました。如何です、それで滿足しませんか」

「何だか要領を得ません。勿論滿足すること出來きせんけれども私は貴兄に依賴して少し待ちましよう」

*　*　*　*　*

吾々の第二回目の遠足は次の土曜日と定まつた。キーンは如何にも待ち遠しさうに待つて居つたし、自分も事の眞相を早く見屆けたいと云ふ考へから同樣に待ち焦れてゐた。併し大概の見當は既に私に付いてゐた。然れども今度は可成彼の言ふ所を妨げないで勝手に喋らして置いて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

傍て傾聽してゐる覺悟を定めた。

我々が遠望岩に登つた時、キーンはいとゞ默然（もくねん）と何か思ひに耽つてゐる樣な風であつた。其模樣が第一回の時よりも著しい樣である。併し彼の眼は烱々として輝き一杯に明いてゐた。稍々暫くして彼は其處此處の村や家のことに就て話した。家庭の波瀾、社會的の葛藤、不思議の人情さては隱れたる罪などに至るまで面白く語りつゞけ扨て口を開いて次の如く語つた。

『貴兄（あなた）はホーソンのブラツクベールと云ふ小說を御讀みになつたことありますか。此書物は能く人生の急所を突いてゐると思はれます。人間は誰れも何か隱さう／＼として居ります。人生の表面は一の立派な假面ですな。中は秘密だらけですよ。併しどんなに秘密にしようと隱れるものではありません。我々が其假面を破つて見通す立場を得さへすれば。この遠望岩は即ち其立脚點です。玆から私は人生の裏面（ヴエール）を貫いて見ることが出來ます。私は此世の光線ばかりでなく色もなく彩もなく捉へ處もない四海に遍滿してゐる不思議の光て人生を見ることが出來ます。其て私は此下の町て町人が私利をのみ動き虛僞をのみ事とし乍ら、これは生產事業なり、これは政治上の運動なりと云つて騷いて居るのを見ることが出來ます。社會が貪慾吝嗇弱肉强食の活氣に依て動いて居るのも見えます。東西も分らぬ小供が眞僞の保證のない宗敎上の物語を無理に注ぎ込まれてゐるのも見えます。戀愛の幻影（まぼろし）が忽ちにして現はれ忽ちにして去つてゐるのも分ります。而して年若き男女が一場の夢に過ぎない此戀愛を永恒である不變であると云つて誓つて居るのも分ります。可愛想に譯の分らない人々が己れを欺き人を欺いて元を正せば自愛心から出たものを自分の愛は神聖なり獻身的なりなどゝ云ひ束縛却つて滿足なりなど云つて居るのも見えます。あの下の方の山の上の學校てドロシーとグラハムとが斯の如きことを知るや知らずや互に變な關係に――』

『何故君は取返しの付かぬことを言はれるのです。本氣でそんなことが云へますか。君は惡魔に取つ付かれてゐるんではありませんか。此岩からでも何處からでも學校にそんな不貞潔（ふしだら）な穢はしいことが行はれて居ることが分りますものか。御出でなさい。歸りませう。家に歸つて見れば解ります』

『家に歸つたつて同じことてす。併し歸るのは歸りませう。歸ります。それにしても私は今少し獨りて玆に居りたいてすが、先きに行つてゐて下さい。十五分經たない内に追ひつきます。あと、も一回此處に來ませう』

* * * * *

あと一回、成程あと一回來なければならぬ。其にしても如何に解決したらば善いやら。善く御互に解らせて無用の苦みより三人の者を救ふには如何したらばよいか。キーンの心緒が亂れて居ることに就ては我々三人共承知して居る。併しキーンが亂心の次第に關し邪推誤解などがあつて、御互ひの間が採めて居るのであるから、亂心の原因を善く解る樣にして御互ひの苦みを解かなければならぬ。私には能くキーンが心理の消息が知られてゐる。されど如何にして其をドルシーとグラハムとに分る樣に說明することが出來やう。說明するとしても其は瞬に罪狀があるからとか氣狂ひになつたと言ふてあらう。或は又それを信ぜすして怒るてあらう。併しキーンは癲狂院に送るべき人ても又人に怨みを買ふ樣なこともしてゐない。又彼等はキーンを病人なりと速斷してそは覺睡劑を服したら餘り働き過ぎた結果と思ふかも知れない。而もキーンの病氣は決して左樣な淺薄なものてはなかつた。病氣と云はんよりは人間の道德性、否我の中心の意志の狂ひより來たものと見る方が適當である。彼の奇癖

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は自分の理想を極端に押し通して行つた結果である。望遠岩は只單に彼の迷ひの岩ではなくて彼の性格を發現したものである。又夫の寂しき小道は幸福を求めんとする彼が復路の休徴である。斯くて精神が空想的となり、抽象的の智識を喜んで複雑卑俗なる人生の事實を輕んずる様になつたのである。斯の如き人間が如何して現實生活の人となることが出來やう。現實生活に入るには束縛も受けねばならぬし、人と目の當りつき合つて御互ひに信じ合つて行かねばならぬし、譬へ譯は解ないても互に善い樂しいと思つたものには滿足して居られねばならぬ。キーンにどうして其が出來よう。彼が四邊の人に迷惑をかけ悲歎を與へたのは無理もない話である。

御互ひの間に如何にしてキーンの性格を理解させよう。又如何にして彼を普通の人間になさう。次の土曜まで此問題を善く考へ適當に之が始末を付けることは大に必要であつた。然るに兎や角思ひ煩ふ内に此問題は自分の手を離れた。

キーンの陰鬱なる傾向は過る土曜日の 遠足後一層 の甚だしさ を加へた。彼は人と接するのがさもいやそうに、寢ぼけた時の様な目付きをなして、物憂げに冷淡に半ば人を輕蔑してゐる様な調子であつた。其有様は恰かも停車場に汽車の來るのを待ち焦れて居る時の様である。何一つ彼の氣に入るものはなく、何物にも反應を與へなかつた。グラハムは此様を見て頻に憤つて居るけれども漸くにして其憤りを抑へてゐる。幾度か彼の怒りは舌端より迸り出ようとしたけれども自ら制し敢て醜態を見せなかつた。ドロシーの堅忍不拔の精神も遂に破れんとした。

キーンの落ち付かぬ調子は烈しくなつた。木曜日は主の感謝日であつた。學校の兒童は各々家に歸り學校は休暇となつた。早朝キーンは私の處に來た。

『どうです。今日遠足しようぢやありませんか。學校も幸ひ休みです。こんな透き通る様な氷りついた様な日には望遠岩は見事でせう』

『今日行けるものですか。今日は家に居るべき日です。君も家に居たら宜しいでせう。少しは友達のこと家のもの丶などのことも考へて見なければいけません。ドロシーも可愛想ぢやありませんか。彼女に對しても其丈の責任はあります』

『責任と仰るのですか。私はそんな責任があるかどうか知りません。而し今日は貴兄は貴兄の善き様になさるが宜いです。一緒に遠足に行くのには今日でも明後日即ち土曜日でも宜しいです。』

丁度其日の晝頃キーンは自分の部屋から下りて來て、ピアノのある側に行つた。其處には彼の愛人ドロシーが居つたのである。彼等は二人で聲低く話してゐた。然るにドロシーは青褪めた顔して目を太く打ち開いて立つた。而して手をキーンの手に掛け乍ら『貴兄、御出でなさるなよ、御願だから今日丈は家に皆と一緒にゐて頂戴よ』と言つた。

彼は彼女の手を擧げ暫らく優しげに之を持つてゐた。其から靜かに女の前に身屈めて手を離した。

『今日は御免を蒙る。仕方がない。どうしても遠足しなければならぬ。是非行く。左様なら――夕方迄には必ず歸つて來る。』

其日は終日苦痛の時間を繰り返した。何か不幸なる又取り返しのつかぬ事が家内に起つたらしき心持ちがせらる丶。併し誰れ一人其を口にするではなく沈默してゐた。曇り勝ちなる空は次第に陰鬱になつて來て、恐ろしき夜は家に舞ひ込んだ。星は勿論影だも見せない。風は初めはヒユー〳〵と鳴つてゐたが後には轟々と鳴り渡つた。雨は初めはポツリ〳〵と強く家の彼方此方に打ち付けてゐたが後には烈しき暴雨となつた。九時も過ぎ十時も過ぎたけれどもキーンは遂に歸り來ぬ。夜半にな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて我々は誰れ言ふとなく一同愈々彼の身に何か一大事が出來したと思ひ定めるに到つた。

眞暗な恐ろしき暴しの夜、如何に心配があればとて山々を越え森を押し分けて捜索に出ることは無理である。併し兎も角も捜索隊を出すことになり其を組織し別に醫師を用意するために人を下の村に遣つた。夜の引き明け方に我々は捜索隊と共に出發した。ツード先生及び四五人の人々は黒河（ブラックリヴァー）の方に行き他の人々は又夫々他の方面に出掛けた。目的は落ち度なく各方面を捜すと云ふのにあつた。グラハムと醫者と自分は私の外誰れも知らない秘密なる山道を辿つて行く。此時ドロシーはどうしても行くと言つて聞かない。内に殘つて居るのは連れて行つて貰ふより苦痛であると云て泣き出しそうに願ふので連れて行つた。

道の里の遠く見へた事又不思議な程であつた。其間グラハムは一歩〳〵ドロシーの注意をする。歩き惡き處は手を率く、邪魔になる枝を拂ひ避けて遣る。氣兼しない併し優しい彼の振舞は母が可愛ゆき小兒の面倒を見るが如くてある。我等は一列になつて進んだ。天明て何となく暗くもあるけれど前夜の暴風雨は名殘なく晴れて天は一面に澄み渡り、靜肅を破るものは時々出す我等の話し聲のみ。

遂に我等は高い寂しき山の背中に來た。背の低い木が密に植つてゐる。望遠岩（スパイロツク）は中に蟠つたる大な猛獸が地上に休息して居る如く前方に横つてゐる。然るに其岩の背中にキーンの體が見える。右の手は其岩の縁にぶら下つてゐる。其樣子は恰も大な怪物が彼を捉へて縁に引つ掛けて背方（こつち）へ運んでゐて樣てある。

我々はキーンを呼ばゝつた。併し返事がない。醫師と自分は共に岩の上に登りキーンが横はつてゐる處に行つて見た。彼は顔を天に向け目を開いた儘臥れて居つた。脈搏なく呼吸もなく最早血も全く氷つて居る。彼の右の手と首と額との一部分は甚だしく膨れて青黒く鉛の色をしてゐる。醫師は屈んで色々と手を検（しら）べてゐたが手首の處にある二つの小さい孔から血がにじんで出てゐるのを見て『御覽なさい。此人は響尾蛇（ラツトルスネーク）に打たれたんですよ。眞暗かりに此岩に昇つてゐて手を蛇の上にやつて打たれたに違ひないてす。そして之は又一體何てすか』と云つた。

平たい銀の小箱が開いた儘岩の上に捨てゝあつた。醫師は其箱を拾ひ上げた。其中に二つの鉛色の木の脂でこれた丸藥が二粒あるのを發見し、熟々手に取つて見てゐたが大な溜息を漏した。

『これはグンゲヤと云ふ恐ろしい覺藥ですよ。氣の毒な話てすれ。平生の苦みを此藥て、やつと抑へてゐたんですよ。こんなもの嚥んてゐたんぢや全然夢の中に死んだ樣なものてすな』

『全く左樣てす。夢の中に死んだし、又夢見るために死んだんてす』

我々は丁寧に死者の顔を覆うて岩を下りた。グラハムとドロシーはと下て我等を待ち受けてゐた。グラハムは女に自分の上衣を被けてやつた。少女は少しく慄へ其顔には涙の痕が見られる。

『どうもいけない。可愛想なことてす。終に人一人殺しました。永の別れになりました』と自分は憮然として云つた。少女は

『私はとうの昔しから別れてゐました』

（おわり）

ラルフ、コノアの傳

原口生

ラルフ、コノアなる名前は未だ洽く日本の讀書界に知れ渡り居らざるが如し。其名を知れるものと雖も其著書を見たるもの少なく、其著書を見たるものと雖も實際讀んで其中味を味はへる人は至つて尠なし。これ蓋しコノアが文明の中心たる亞米利加合衆國或は歐羅巴に於て生れざりしと彼の描寫の區域が全く宗教的生活に限られたるに依るべしと雖も、彼が文學者としての位置は現今僅に世界の最上位にあるものなることは親しく彼の著書を讀める者の皆認むる所なり。現に亞米利加に於て最も賣れ行き善き小說はコノアの其にして、昨年十二月クリスマスに出せる小說ドクターの如きは發賣後未だ數日を出でざるに初版十二萬五千部賣り切れたりと云ふを見ても如何に彼の小說が目下世界に歡迎せられ居るかを窺ふに足れり。幸にして彼が最後の著作ドクターは我日本に於ても多數の購讀者ありたりと云へば、此文學者が我國一般讀書社會に知られ日本人の思想に益するの日は遠きにあらざるべし。

余が初めてラルフ、コノアの小說を讀みしは二年前の事なり。余が讀みしは彼が「グレンギャリー人」と云ふ小說にして、其時に先づ初めに感じたることは余は不健全なる文學書を拋ちて何故に此書を今少しく早く讀まざりしかと云ふことにてありき。余は此書より得たる感慨をページの制限ある本誌上に於て紹介し盡すことの不可能なるを感ずるもの也。小說好きなる余は其迄露西亞獨逸にて出版せられたるものを多く讀みたり。而して澤山の利益を得ると共に又澤山の弊害を得たり。然るに「グレンギャリー人」なる小說を讀むに及むで余は全くコノアに心醉するに至れり。「グレンギアリー人」より得たる滿足は其熱烈の度に於ても樂みの度に於ても曾てトルストイの復活其他彼の小說論文を讀める時の其に勝る處あるも劣る處なきを覺ゆ。少なくとも余自身の經驗に於ては此點に於てはニーツエ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のツアラトストラ以上の感じある也。余はゼ、マン、フロム、グレンギャリーの章句は如何なる時に於ても決して忘るゝ能はずなりぬ。余がコノアの著書に對する知識は未だ甚だ少なくして多く言ふに足らずと雖も而も暇ある毎に彼の著書を引續き愛讀しつゝあるは事實也。余は次第にコノアが著せる小說全部を通讀せんことを志願す。余をして玆にコノアが思想の特質を略記するを得せしめよ。第一に彼の思想は全然亞米利加的也。否一層適切に云へば亞米利加的と云はんよりは寧ろ徹頭徹尾加奈他風也。然らば加奈他とは抑も如何なる所なるか。西にはロッキー、カスケードの山脈太平洋の沿岸に並走し。コロンビアの高原はロッキーの峯をしてアラスカの國境にあるロガン山に連らしむ。ロッキーの東には我武藏野を幾十倍にしたる程の加奈他太平原あり。其間に河あり湖あり。地味肥沃にして草木到處に繁茂す。幾多の大牧場幾多の大森林は之を證明せるなり。以是樵夫一度斧を揮へば其響二哩三哩遠きは十哩に達すると云ふ。而して其人口は一方哩僅かに百五十人に滿たず。さる人は云へり、加奈他に於ては猿の數は人間の數よりも多しと。されば自然の力は優に人力を制して餘りあり。斯くの如き大自然の中に生れたる文學は勢ひ大自然の大勢力を受けざるを得ず。即ち加奈太的ならざるを得ざる也。さればコノアの小說を通じて最も著しき特徴と見るべきは自然の勢力なり。作中に現れ來る人物は文明の規範より脫却せる自然の兒なり、自由の兒なり。彼が作中の人物は皆一種の自然物の如き觀あり。彼等の多くは文字を知らず禮儀を知らず法律を知らざるもの也。居常牛、馬、犬其他の鳥獸を友とせるものなり、原野を友とせるものなり、森林を友とせるもの也。彼が捉へ來る人物は全く原始的生活の人也。而してこは最も今日の著者に味ひを與へる特長の一也。試に之を露西亞獨逸の小說に比較するに彼は自然と人事との調和を描き之は其兩者の爭鬪を描き、彼は自由の生命を描き之は牢獄の生活を描けるが如き觀あり。若し現今社會の生活に失望せるものをして之を見せしめば彼はコノアの小說に於て慥

かに一種の天地を發見するを疑はず。而して彼はコノアが慥かに現今の小說作者と肩を並べて行くに足るべき地盤を持てることを發見すべし。コノアの小說の第二の特徵は宗敎的精神殊に基督敎的精神が首尾一貫せる事也。一面より見れば彼が捉へ來る人物は全く自然物に等しくゴルキーが描ける人物に酷似せる所あるも彼が人物の如く殘酷ならず陰欝ならず。常に快活なり常に活潑なり。而して宗敎的也。彼は自然的境遇の裡に生活するものが何等の機會なくして宗敎的本能を發揮する能はざるは勿論なれども、機會だにあらば彼等は熱烈なる信仰を發展するものなることを遺憾なく證明せり。彼は自然的生活と宗敎的生活との密接なる關係あることを證明するに於て驚くべき手腕を要せり。彼が思想の第三の特徵は彼が眞の宗敎的生活は所謂女々しき煩悶の裏にあるにあらず不自然にして文明の桎梏に苦めるものゝ心より生れ出づるものにあらずして、勇壯活潑なる自然的生活より發するものと見たる信仰是也。これ蓋し彼の思想が從來の宗敎的文學者と其見を殊にする所也。余は玆に之を詳述するの餘裕を有せず。只自然的生活の中より宗敎が自然に發展し來る有樣を描くことに於て我等は何等の矛盾をコノアに發見すること能はずと云へば足れり。第四に彼の思想の特徵と見るべきは彼が女性を重く見たること也。余の讀める限りに於ては眞に偉大なる宗敎的勢力あるものは皆悉く女性なり。讀者試に「グレンギャリー人」中に現はれ來るマレー夫人を見ば女性の偉大なる性質に關して新發見をなしたるが如き心地すべし。彼が思想の第五の特徵は彼が驚くべき自然の同情者歎美者なること是也。彼は得意の靈筆に依て山川草木禽獸蟲魚までも靈化し詩化せり。

以上はコノアの思想の特質を筆に任せて掻き集めたるものに過ぎず。願ふ所は讀者がコノアの小說を求め來つて此夏期の休みを利用して讀み大に利益せられんこと是也。余は玆にコノアの高尙靈妙なる思想と新しきイングリッシュとは諸君の睡眠を覺す力あることを保證するもの也。以下コノアと個人的に相知れるマグ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ドナルド孃の有名なる小說家に關する話しを紹介すべし。

* * * * *

ラルフ、コノアと云ふは小說家の又の名にして本名をチャールス、ゴルドン（Charles Gordon）と云ふ。今を距る約四十年加奈他のモントリールの近傍に於て生る。兄弟五人妹一人あり。彼の父はスコットランドのプレシビテリアン派の僧侶にして壯年の時加奈太に來つて傳事道業に從事せり。其時彼が直に住めりし地はグレンギアリー村にして、コノアが己が小說の舞臺として取れる所は即ち此村也。コノアがグレンギアリに於て如何に樂しくして純潔なる家庭に育てられたるかは彼が「グレンギャリー人」「グレンギャリー學校生活」等を讀みても略ぼ推測することを得る也。コノアの父は甚だ正直にして誠なる人なれども高地スコットランド人の特有性として餘りに峻嚴に餘りに理屈つぽく餘りに保守的にして深く人に愛着せらるべき人にあらず。彼は長敬せらるべき人にして愛着せらるべき人にあらざる事は親しく彼を知り又親しく「グレンギャリー人」と云ふ彼の子チャールスゴルトンの小說を讀めるものゝ共に觀取する所也。「グレンギャリー人」中に現はれたる牧師を見るに、成程彼は宗教の事柄に關しては甚だ熱誠嚴格なれども理に拘泥し、人を感情上より見て情をもて他人の心情を汲んでやることをなさず、ために人の眞相を觀破すること能はずして常に誤解に陷れり。されば彼の誤解に苦められたる靑年多くあり。斯の如きは高地スコットランド人通有の弱點にして抑も又コノアの父の缺點なり。此父は今八十の高齡に達し全く閑散の身となれり。彼が頭髮は寄る年波と永い間の辛酸苦勞とにより白銀の如く輝き渡れり。數年前われ等が家に來り一夜を共に樂しくすぐせしとき語らるゝ樣『我壯年の頃の働き振りこそ見物なりし。我一度世の子を救ひ上げ賜ふ神の子羊など云ふが如き題にて演說せし時は滿身の元氣當るべからざるものありき。さればわが妻はわが家を出づる時には常に我愛する君よ、今日の說教に於て餘りに血氣にはやり給ふべからずと云ひて固く我を戒めたる位なりき。然れども今は精神の活氣も次第に衰へたり。勢ひ盛んなりし昔を偲へば胸心躍る心地す』と、然れども我等の見る所聞く所に依つて見れば彼は老いたりと雖も元氣、尙ほ旺んにして壯者をも驚かすこと尠なからず。

コノアの母は約二十年、前に此世を去りたり「グレンギャリー人」中にも現はれたる如く、彼の母は最も完全なる女性にして愛情と犧牲の精神に富み聰明にして意志強く加ふるに彼女の宗教的熱心は常に白熱の度に達せり。コノアの母を能く知らんと欲せば須らく「グレンギャリー人」中のミッセス、マレーを見るを要す。彼女は良家の娘として生れ家庭に於て將學校に於て出來得る限り完全なる敎育をうけたり。メーリー、リヨン氏がマウント、ホーリーヨーク學校の校長たりし際其校を卒業したり。彼女の優美溫良なる性質は彼女の兒女は勿論彼女に接する凡ての靑年男女の母たらしめたり。殊に彼女は其が峻嚴すぎる性質のため色々職掌上の失敗ある所を補ひて充分に內助の功を擧げたり。彼女の薰陶に依りて奮起立身せし靑年今日其數少なからずと云ふ。さればコノアが母に對する愛着の念は幼時より烈しくして母の歿後今日に至るも變ることあらず。彼は元來女子に對して多大の信用を有さゞりしも彼の母の美質を能く呑み込むに至り全く女性觀を變ぜるのみならず、人間靈魂の救濟事業に於て、彼は深く女性の感力を信ずる樣になれり。又以て母の人となりを窺ふに足るべし。

ラルフ、コノアは斯の如き父母に依て加奈他の田舍に於ける父の管轄

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

既内に於て人となれり。長ずるに及びて加奈他東部のトロント大學に入り、別に取りたてゝ云ふべき程のこともなく其大學を卒業せり。彼は卒業後間もなく西部加奈他に趣き基督教傳道者として數年間其地に滯在せり。彼の傳道は全くの新開地に於て行はれ彼に導かれたるものは遠く家を捨て妻子兄弟知己に分れて來れる冒險家のみにして、眞に命知らずの類ひにして、法律の保護制裁も行き屆かねば彼は此數年間に於て殆んど人知れぬ苦勞を經驗せり。然れども其と同時に彼は世に捨てられたる勞働者の大なる自然と接觸して如何に變り行くかにつきて世に類ひなき經驗を得たり。後年ブラック、ロック (Black Rock) となりセ、スカイ、パイロット (The Sky Pilot) となりセ、プロスペクター (The Prospector) となりて現はれたるものは此西方加奈他に於ける彼が經驗の賜物なり。彼は各々の小說に於て殆んど自己の經驗を有りの儘に描けり。そは彼は虛僞なる粉飾をいたく嫌へばなり。されば彼が西方加奈他に於て果して如何なる働きをなせしかはスカイ、パイロットに最も明らに見らる。パイロットは正しく西方にありしコノア彼自己の面影なり。彼は居常野獸にも等しき粗暴なる人民の間に入りて熱心なる傳道をなせり。彼は之等文明に見捨てられたる助けなきものに深く同情し又深く彼等に愛せられたり。從て彼の傳道には大に見るべきものありき。今彼が野蠻人同樣の人々の中に於て傳道し充分効果を擧げ得たる理由を考ふるに其最も大なる原因は彼の傳道が文學者なりしこと是なり。彼は世の多くの傳道者の如く文明に依て腐蝕せられたる形ばかりの基督教を一本調子に傳道することをなさず、能く人心の機微を察して靈性の中軸に突貫するの法を知れり。彼は人間の個人性の色々雜多の變化を認識すると共に能く又人間精神の統一を信じたり。故に彼は一方に於ては數限りなき個人性を見ると共に如何なる人も宗教を信じ救ひの道に入ることを得るものなることを信じたり。一言以て之を蔽へば彼の傳道法は豐富なる傳道法なりき。これ彼が多くの勞働者を救ひ得たる大なる原因なりしなり。

過去十年間彼はウヰンニペッグに於けるプレンビテリアン教會の牧師の職を奉じたり。こは西部加奈他の最大市なり。初めは教會も小にして信者も尠なかりしが彼が來住以後信者も增加し今日に於ては多數の教會を見るに至れり。而して信者の彼に對する尊敬は極めて熱切なるものありと云ふ。ウヰンニペック在職中彼は有名なる教育家の一女と結婚せり。

コノアの體質は性來肥滿する性分にあらず身長は十人並よりも高き方なり。幾分か神經の素質あれど極めて折り付き能く素振り優雅にして敢て故意とらしきことをなせず。人に應對する態度は極めて謙遜親切にして文名嘖々たるにも拘らず纔へて浮誇の色あらず。われ嘗てコノアが己れの教會に於て說教するを聞けり。聽衆は重に青年なりき。非常に雄辯と云ふにはあらねども說教中に組み入れる實例は極めて卑近にして說教は至つて直截なりき。神經質なるにも似ず壇上に於ては男らしく大膽に振舞へる樣に見受けられたり。說教の後小集を開く。殘り集るもの甚だ多し。彼は當時西方加奈他に於て常に遭遇する實際上の諸問題につき討論せり。就中面白かりしはクリスチアンは果して金錢を貯へて可なるや否やの問題なりき。種々なる議論出てたる後、彼は巧妙なる斷案を與へて、扨て言ふやう我々は神の意志を常に眼中に置くを要す。神の意志に適ふことは皆善にして他は皆非なりと。われは元よりコノアに接する機會を餘り多く有せるものから彼が此集まりに於てなしたりし擧動と言語とは今日に至るまで明かにわが心に宿れり。彼の會衆に對する態度は極めて親しげにて一人の兄弟が仝じ家族の兄弟等に接するが如き觀ありき。

彼が文學的作品に取りかゝるは決して己れ先づ發意するにあらず。常

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に友人等にすゝめらるゝに依れり。時に依ては彼は出版業者等に迫られて充分に訂正添削するの暇なく出版することあり。而してこは文名隆々たる今日に於て最も甚だし。能くも彼が著作を見ざる人々の中には彼が無學文盲の民の田野山林の間に於ける生活を描くを見て野卑なりなど云へど、そは全く當らぬ評にして彼が著書一冊全體に目を通したらんものは高尙優美なる思想か其表に或は裏に隱見するを見るべし。彼が尋常一樣のことにも常に活きたる描寫に彩宗敎的背景を與へて之を活躍せしめ讀者を活躍向上せしむの力眞に驚くべき也。

終りにコノアの最大傑作なりしと稱せらるゝフロスペクター(Prospector)に就て語り彼が如何に實際生活と宗敎的生活とを結合せんとするかを見んとす。大學出だての靑年あり、金鑛坑夫の間に傳道すべく西部加奈他に行けり。そこに一の居酒屋あり。坑夫等が額に汗して蓄へたる金を卷き上げることを商賣とする惡德主人あり。或機會に依て靑年傳道師は其敗德主人に面會し閑談之れを久うせり、主人問うて曰く汝は此地に於て何をなさんとするか。靑年の曰く余の職業は求めることにあり。主人問ふ　然らば汝何を求むるや。答てへ曰く我はこゝに多くの人々の如くに金銀を求むるものにあらずして人の靈魂を求むる者なり。主人愕き問ふ、汝の親分は誰ぞ。答へて曰く「神」と。主人愈々驚き色々語らひし後主人は彼か妻を失ひて今日の如き墮落せる情態に至れることを明せり。靑年牧師はさらば妻にも代るべき或は其よりも大なる友を與へんとて基督の敎を說き握手して去れり。後敎はると云ふ一條なり。斯く二三行にて書き流せば誠に花も實もなくなれど讀者試に彼が著作の一を取つて見られなば、如何によく彼が實際生活と宗敎的生活とを結合せるかを認むるに至るべし。

彼年未だ四十に滿たず。而も牧師として將た文學者としての働きは今や世界の注意を驚心かんとす。(以上マクドナルド)

コノアの著書の重なるものは次の數種なり。

"Black Rock" "The Sky Pilot" "Prospector" "The Man from Glengarry" "Glengarry School Days" "The Doctor" 右の內 "Black Rock" は處女作のことなれば技巧を凝し苦心せし節多く從つて讀むに困難なり。先づ "The Man from Glengarry" 位を讀まれたらんには英語も易く面白く讀みつくすことを得べし。

女子基督教青年會が國家に貢献すべきことゞも

井深はな

私は此重大な問題につきまして、私が平生考へて居りますことの、ほんの要點だけをかい摘んで御話し丶て見たいと思ひます。女子青年會が差當り我國のため貢献すべき事柄の重なものを擧げますると、第一は我國青年女子の間に堅實な基督教風の性格を養成せしむること、第二は女子の理想を高くすること、第三は家庭に新理想を鼓吹することであります。今此三つの一々につき少しく精しく申し上げます。

一　堅實なる基督教的性格の養成　此種の性質ある婦人が必要なるは强ち日本のみではありません。併し特に此處に取り立て丶云ふ必要があると云ふのは日本には今日堅實な道徳性を有する婦人が少ないにも拘らず、今日此種の性格を涵養せしめ得る道德の敎とてはありませぬ。有つても其勢力は弱いものであります。此仕事に堪ゆるものは如何しても基督敎を措いてはないと思はれます。然るに基督敎の女子の間に於ける勢力はまだ微々たるものであります。そこて女子基督敎青年會は大に活動致しまして此美德の扶植に助けなければなりませぬ。前に此處で御話しになつた方の御話しに依りましても御解りになつたと思ひますが、西洋の或國では基督敎的女德は小學校ですら敎へて居りますばかりでなく社會百般の事柄が基督敎で固められて居りますから德性も至つて堅固になります。併し我國にありましては基督の名の下に立てる學校も少なう御座りまするし、從つて基督敎的感化は大層弱くあります。それに基督敎の下に立てる學校が只少ないばかりでなく、これに反對して居る學校さへある位ですから私共は最も熱心に傳道して此堅實なる德性を養つて國家に盡す道を取らなければならぬ樣に思ひます。私が玆に堅固な基督敎的德性が必要であると申しまするのは外ではありませぬ。我國では女性の基督敎的德性と云ふものが充分に認められてゐませぬからして、女子學生などが基督敎的學校又は其社會から一度離れますと世間普通の女子とも同樣に誘惑障害があります。そこで堅實なる品性をもてる女性が必要であります。殊に私は基督敎を奉ずる女子にてあり乍ら學校を出ましてから色々の困難障害に服從した人のあることを知つて居りまするからして、基督敎を奉ずる女子でも意志の强い人を作り上げることが必要と思ひます。女子の青年會はこれらのことに盡さればならぬと思ひます。

二　女子の理想を高尙にすること　これは今日女子青年會

が國のため致されればなりませぬ、大切な天職であると信じます。私は今日此天職を全うするこ と出來るものは、基督教の他はないと信じます。舊幕時代にも献身自制と云ふ様な高尚なる理想が女の間には御座りました。成程此等の精神と云ふものは基督教で云ふ獻身や克己とは異つて深い愛の洗禮をうけて居りませぬけれども、偉大に賴むべき點がありました。若し自制克己献身と云ふ昔しの美德に愛の精神が加はりて女子の精神に宿るならば此上なき立派な女性が出來ること丶思ひます。然るに今日此等の精神が女子の間に欠けてゐるのを見まするると何となく心苦しく思はれます。女子青年會は奮發して愛、犠牲、克己、自制の德を普及せればなりませぬと思ひます。

三新理想の家庭を作ること　新理想の家庭が必要であることは申すまでもないことであります。最も亂脈で害を世に流してゐるのは今日の家庭であります。眞に神聖な家庭は寔に尠い様です。若し國家の間に神聖なる家庭が増して來たならばどれ位國民の福祉が加はるか解らないと思れます。女子青年會は極力此方面に盡さなければならぬと思ひます。

以上は青年會が目下國家に盡すべき事柄の二三を申し上やましたのに過ぎませぬが、之等の目的を達しまする手段を大らかた申上ますと、

一　我等は女學校に早速女子基督教青年會を起さなければなりませぬ。

二　客舍を立つべきこと　客舍を官立女學校或は基督教主義の下に立つてをりませぬ女學校などの中に設けまして聖書の講義や祈禱會など致しまするのは基督教精神を鼓吹する上に最も有効な方法であると思ひます。折角寄宿舍を置きましても誘惑にかゝらず衣食して行くと云ふだけではつまりませぬから、善い女の監督の人を置きまして進取的に舍生に宗教を傳演する様でなくてはいけないと思ひます。それには舍を善き仕組に致しまするることも必要でありませうし、舍生が殘らず尊敬致しまする様な女の監督を擇ぶことも必要でありませう。

三　基督教文學を鼓吹すること、　基督教文學と申しましても眉の凝るやうな教義の本をすゝめる必要はありませぬ。成程と心から打ち解けて感ずる様な小説など大變に宜しいと思ひます。日本には女の人に與へて善い様な文學が少ないのであります。青年會は奮發して此種の文學を興し女子にすゝめることに力を盡しましたならば、如何ばかり日本の女子教育のためになるか解りませぬと思ひます。

四　青年會本部を設くること　これは神田にある青年會男子部の本部が大層世の中の役に立つてゐることを御存じの方には、直に御解りになること丶思ひます。勿論其本部の内には大きい立派な室が必要でありますが、別に運動場などつけ加へましても面白いと思ひます。それで女たちが隨時に其場へ來て遊び戯れ又は體操など稽古致しまするならば體格は大層進歩するに違ひありませぬ。萬國青年大會の時に各國の代表の方々が御出でになりましたが其人々と比べて私共日本人の體格が非常に劣つてゐるのを見まして、體操場の設備が大層必要である様に感じました。健康なる精神を養ふにはどうしても健全な體が必要であります。

女子青年會本部には力のある幹事が必要であります、併しこんなことは言はないでも皆様能く御承知のことゝ思ひます。

女子基督教青年會が致しまする事業は前途に立塞つてゐますから、私共は一心に其事業の擴張に骨折る工

面をしなければなりませぬ。

（英語演説摘要。文責は井深氏にあらず）

大會に臨みての所感

同志社女學校基督教女子青年會代表者

花は笑み百鳥唱ふ、長閑けき盛春に、海山遠く隔てたる外つ國より波濤の旅も厭ひなく、神の御惠みを互に語りたゝへんとて、東都に集び給ひしは、げに我國開闢以來且つてなき喜ばしき事なりき。我等學生は清く且つ莊嚴にして愛のあふるゝ晴れの會場に臨み、御教を聞くの榮を得て實に嬉しかりき。

嗚呼過ぎにし大會を追想すれば、幾多の感想念頭に浮びて今更に大會讃せざるを得ず、經驗に充ち給ふ諸彦兄妹の口を通して承はりし御教多き中にも「神と人どの平和」なる題は、我等が心に徹して深き印象を與へられぬ。文明の氣に充ちて日々進み行く現世に、多くの人々は我先きに月桂冠を得んとして朝夕やすむ所を知らず。殊に血氣に充ちて誘惑しげき青年に於ておや、見よ、煩悶なる言葉の多きを。若し彼等神の平和を受け得るならば心中の波瀾忽ちに去りて小波靜けき青海と變ずるならん。かゝる平和に導くはそも誰の責任ぞや。他なし、神の御惠みに浴しつゝある青年の將來否現今の務め且つ事業なり。殊に大會に於て多くの奬勵を得たる我等の責任大なりと云ふべし。かく考へ來れば信仰うすき我等もいとど心强きを覺ゆ。いざ心の手綱引きしめて谷間の百合を尋ね行かん、ア、樂しき務ならずや。

大會に於て得たる御教示は舉げて數ふ可らず、聊か思ひしまゝを綴りて所感となし、諸彦兄姉に感謝の意を表す。

宮城女學校基督教女子青年會報告

早坂のぶ

本會にては本年四月東京に於て催されたる基督教青年會萬國大會に二名の代表者教員一名生徒一名を送り、費用金拾四圓三十二錢を本會にて辨じたり。

四月十二日午後二時より宮城女學校に於て、仙臺市長早川氏宮城縣第一部長西村氏其他市内官私立女學校及び基督教同代表者市内の内外淑女及び本校教職員生徒一同を招待して、基督教青年會萬國大會代表者スペンサー孃、フリース夫人、ドレーパー孃の三婦人の歡迎會を兼ね講演會を開きたり。

會長は邦語、副會長は英語を以て、執行順序の說明及び歡迎の辭を述べられたり。市長の歡迎の辭の後三婦人の有益なる講演あり、次に三婦人紹介會ありて、後一同に茶菓の饗應及び餘興等ありたり。

四月十三日宮城縣尋常師範學校女子部に於て右三婦人の大講演會を開かれたり。出席者は市内十一の女學校より生徒八百名、教員七十名、及び市内の淑女を合せて一千二百名に上れり。

同校長の司會にて市長の歡迎の辭及び一部長の感謝の辭ありたり。三

婦人は我々女子の爲に再び有益なる講演をせられたり。後又同校に於て紹介會及び茶話會ありたり。蕊茶を滿足を以て散會せり。
四月十四日日曜日同婦人等は所々の教會に於て、重ねて有益なる講演ありたり。得る所頗る多かりき。
四月二十五日午後三時半より基督教青年會萬國大會へ派遣したる代表者の報告會を開けり。
讃美歌を以て開會し、會長の聖書朗讀及び祈禱の後直に代表者の報告あり。後再び讃美歌を以て閉會せり、生徒一同は東京に於ける大會の模樣を聞きて大に悦び日を經ずして六十名の會員を加へたり。

女子基督青年會總會報告

委　員

明治四十年六月一日午後二時より女子英學塾講堂に於て東京女子基督教青年會總會を開く。先づ讃美歌河井道子氏聖書朗讀元田作之進氏の祈禱につゞき、司會者ミセス、アリーンよりの簡單なる挨拶を以て開會し、次に當會の來歷、會員の狀態及び女子青年學生の爲新寄宿舍設立の希望等につきのべらるゝ處あり。引續き會計報告役員決定などありき。猶當日は特に當會の爲に設けられし女子學院有志者諸氏の合唱あり。またミス、マクドナルドよりは萬國青年會なるものは大凡五拾年以前英國ロンドンに發會せられ漸次盛大に趣きたるにその主とするは神の道を世に擴め各自の品格修養をするにあり其他個人の品性「汝等互に相愛せよ」の句を引き友情につきて有益なる一場の講話ありたり。
猶又小石川安藤阪女子青年有會寄宿舍長世良田氏によりて同塾舍建設以來の狀態につき語られしによれば、目下塾生は二十六名にて各自その屬する學校は異なれども互に姉妹のごとくむつみ合ひしかも靈性の發達を勉めつゝあればその結果は美はしき事ならんと。また三谷氏より聖書

研究會の時日場所などを告げられます〳〵研究者の多からむことをのぞまれぬ。讃美歌を以て會を終り茶菓饗應ありて互にたのしく親睦し午後五時散會せり。

女子基督青年會寄宿舍會計報告

（自三十九年四月始　至四十年四月末）

收入之部

一食料	一〇八四、六三〇
一室料	一五九、二一五
一炭料	三一、一七〇
一寄附金	九六一、七一〇
合計	二二三六、七二五

支出之部

一設備費	一六三、四三七
一雇人給料	八六、六四五
一會母へ謝禮	三九〇、〇〇〇
一家賃	六九八、七五〇
一食糧費	一〇一九、六六八
一燈火料水道費 其他雜費	七、〇七〇
合計	二三六五、五六九
差引不足金	七一、一五六

女子青年會寄宿舍敷地

女子青年會寄宿舍建設地は小石川區安藤坂に決定し、青年會に於て既に買收したることなれば不日建築せらるゝに至るべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國木田獨歩著　小杉未醒畫

（新刊）

濤聲

獨歩氏は自然派の泰斗なり現代を於て最も成功せる短篇作家なり其作物は尤も深刻に人生を描き篇中の個性は皆躍々として成效す今や明治の小説界に氏の作によりて一轉化を來さむとせり本書收むる處鎌倉夫人神の少子女死帽子あの時分號外非凡人園運會波の音等十三篇

定價八十錢　郵税金八錢

國木田獨歩序　小杉未醒著

（新刊）

詩興畫趣

十人畫傳、水國の秋、夢遊記、畫紀行、靑葉若葉、栗山記、淸ちやん、富士日記等を收む其畫は既に定評あり文章又瓢逸にしてしかも雄勁文學者の壘を磨するものあり而して此二者並行する處無限の興趣を感ぜしむ眞に之れ天下の絕品一本は必ず書架に備へざるべからざる珍書なり

定價八十錢　郵税八錢

發行所　東京神田表神保町　振替口座四一〇五　彩雲閣

基督教女子青年會
第二回夏期講習會

趣意 第一回講習會ハ極メテ好結果ヲ得シヲ以テ本會ハ女子學生並ビニ基督教女子信者女子求道者間ノ友誼ヲ增進セシメ且ツ心靈上ノ修養ヲ圖ルヲ目的トス。從ツテ地方ニアル諸姉ヲモ迎フルコトヲ喜ブ。

場所 東京青山女學院（昨年未成ノ電車モ本年ハ學院前迄全通セリ）

會期 自明治四十年七月十二日夕
至仝　七月十八日朝

會主 基督教女子青年會

題目 聖書研究、青年會事業研究、各種講演、其他祈禱會、懇親會、音樂會、茶話會等

講師 植村正久氏、外村義郎氏、井深梶之助氏、山室軍平氏、新渡戸稲造氏、元田作之助氏、本多庸一氏、矢島楫子氏、其他猶ホ依賴中

費用 講習料（五日分）三十五錢位
滯在費（寢具料及ビ宿泊費）（一日分）四十五錢位

御照會の向は三錢切手封入又は往復端書にて麹町區土手三番町十五 **基督教女子青年會** に申込まるべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

YOUNG WOMEN

OF

JAPAN

Vol. IV *June 15th, 1907* *No. 6*

Miss M.A.Whitman, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss A.G.Lewis, Secretary
Miss Sarah Ellis, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member of the World's Committee
Miss Michi Matsuda, Editor of "Young Women of Japan."

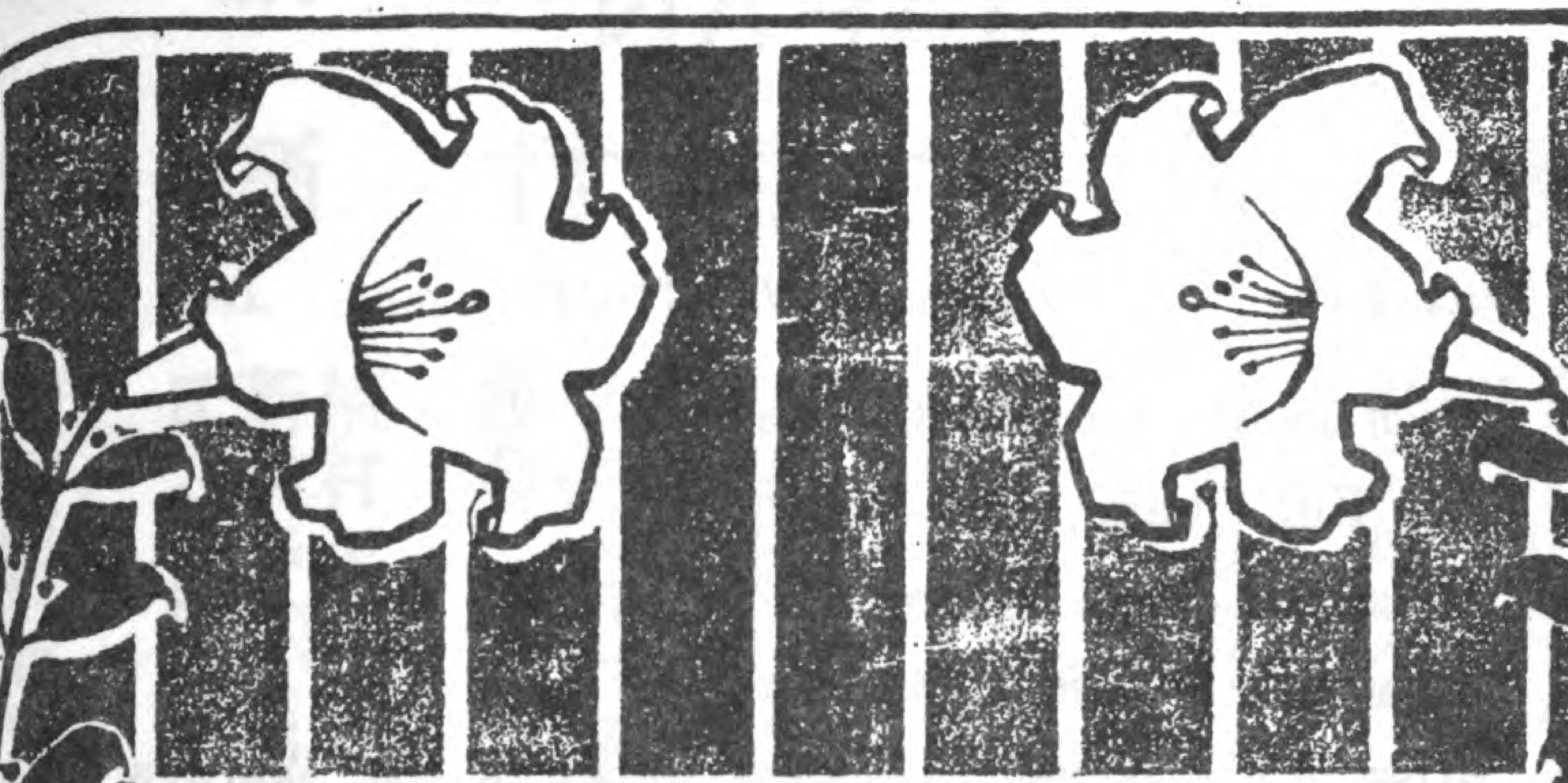
Resident Members	Non-resident Members
Miss Ume Tsuda	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. Hatsu Watanabe	Miss L. Hamilton, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. V.W.Helm, Kobe
Dr. Tomo Inouye	Mrs. G. S. Phelps, Kyoto
Mrs. G. M. Fisher	Miss E. M. Soper, Nagoya
Miss Hama Hirano	Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Miss Sumi Miyagawa	Miss L. Zurfluh, Sendai
	Miss M. Brownlow, Hakodate

Miss A. Caroline Macdonald,
General Secretary
Miss Stella Fisher,
Assistant Secretary

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN



Study to show thyself approved unto God, a workman that needeth not to be ashamed, rightly dividing the word of truth. II. Timothy 2 : 15.

Vol. IV *June, 1907* *No. 6*

CONTENTS

EDITORIALS :—

Legitimate Recreation........Profesor K. Nakagiri
The Ruling Person..............A. C. Macdonald
Hidden Power ....T. Haraguchi

LITERATURE :—

"Gwen's Canyon" ....Ralph Connor
Translated by Miss Michi Kawai
and Mrs. Yasu Tsujimura
"Spy Rock" ....Henry Van Dyke
Translated by T. Haraguchi
Life of Ralph Connor..........

MISCELLANEOUS :—

What the Y. W. C. A. can do for the Nation ?
Mrs. Hana Ibuka
Report of the First Annual meeting of the Tokio
Y. W. C. A. Association notes

東京神田美土代町

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA